

那覇市社会福祉法人等社会福祉施設 地域貢献活動

～ちゅいネットなは～

# 参加の手引書

## (入門編)

＼地域の社会福祉施設の声つぶやきを実現へ!!／

地域で  
いつでも気軽に  
相談できる場所を  
つくりたいね!

地域とつながる  
活動をしよう!

施設の専門性を  
地域で活かしたい



社会福祉法人 那覇市社会福祉協議会

〒901-0155 那覇市金城 3-5-4 (那覇市総合福祉センター内)

TEL 098-857-7766

FAX 098-857-6052



那覇市社会福祉協議会  
ホームページ



ちゅいしいじい事業  
ホームページ

ちゅいしいじい事業 (小規模法人ネットワーク化事業) 担当者

# 那覇市における地域貢献活動 参加の手引書 入門編(たたき台)

はじめに	1
<b>1. 「社会福祉法人等の地域貢献活動」が求められる理由</b>	2
①私たちの暮らしに起こっている様々な困りごと（地域の福祉課題）	2
②社会福祉施設の地域貢献活動を必要とする背景	3
③複数の社会福祉法人等施設が連携・協働する意義	4
④活動の位置づけ（根拠）	5
<b>2. ちゅいしいじい事業（小規模法人ネットワーク化事業） 3年間のモデル事業から見てきたこと</b>	6
(1) 那覇市のちゅいしいじい事業の取組紹介	6
①4行政区毎のプラットホームの設置	7
②法人の専門性と施設機能を活かし地域貢献活動を複数法人連携での取り組み	11
③17法人がこれまで培ってきた地域貢献活動の紹介	13
④社会福祉施設が地域貢献活動を行っている事例を通しての気づき	30
<b>3. これからの那覇市内の社会福祉施設に地域貢献活動に参加して頂きたいこと</b>	31
①社会福祉法人等施設の地域貢献活動「ちゅいネットなは」の内容	31
②「ちゅいネットなはの体系図」	32
③参加手引書の活用について	33
—資料編—	
<b>4. 入会に関する資料編</b>	34
(1) 参加の手続き	34
(2) 入会費用	34
(3) 入会資格	34
(4) チャリティ活動の推進	34
(5) 参加に係る Q&A	35
入会申込書	37
(6) 実施要領	38
(7) 参画法人名簿	40
<b>5. 地域貢献活動に役立つ主な相談窓口</b>	42

## はじめに

私たちが暮らす地域には、子どもから高齢者、また障がいのある方や外国人など様々な人が暮らしています。しかし、少子高齢化や人口減少、家族形態の変化や相互扶助機能の低下等を背景に、子どもの貧困をはじめとした生活困窮、虐待、ひきこもりなどといった複雑化・複合化した地域生活課題を抱える方々がいます。

国においては、このような社会構造の変化や暮らしの変化等を踏まえ、制度・分野ごとの「縦割り」や「支え手」「受け手」という関係を超越して、地域住民や地域の多様な関係者が参画し、世代や分野を超えてつながることで、地域をともにつくっていく「地域共生社会」の実現をするために、市町村段階の包括的な支援体制の構築を目指した取り組みが展開されています。

地域生活課題の解決にあたっては、各社会福祉法人が分野・対象別の専門性やスキルを活かした取り組みを積極的に実施し、誰一人取り残さない、安心して生活できる地域づくりを進めていくことが求められております。

また、コロナ禍において、あらためて「人と人」「人と社会」とのつながりの必要性が叫ばれるなか、社会福祉法人が行う公益的な取り組みを進めるにあたっては、この「つながり続ける」ことの価値も大事にしながら、地域の幅広い関係者との連携・協働による多様な活動の展開を進めていくことが期待されています。

沖縄県社協では、社会的孤立の解消・防止を目指す THANKS（サンクス）運動の一環として、令和2年度より、沖縄県から地域の複数法人が参画するネットワークの構築と協働事業を行う「小規模法人ネットワーク化事業（ちゅいしいじい事業）」を実施し、那覇市・西原町・今帰仁村の社協をモデル指定しました。

那覇市には400を超える法人・施設が存在し、各行政区で地域課題が異なることから、那覇市社協では、行政区ごとに連絡会（ちゅいネットなは）を設置し、小中学校等と協働した福祉教育の実践、「なは地域貢献便り」の発刊、フードバンク等困窮者支援等の多彩な取り組みを進めています。特に、参画法人による協働事業の具体的な取り組み等検討に際しては、意見交換やアンケートの実施を通し、課題の整理や各法人の強みを把握し、7つの協働実践（①総合相談、②食料等支援、③福祉教育、④居場所サポーター支援、⑤移動支援、⑥就労体験・社会参加活動の提供、⑦その他の活動）を設け今後実施することとしています。

ちゅいネットなはでは、多分野の法人・施設とのネットワークを構築し、地域生活課題へ対応する仕組みづくりを進められ、他市町村社協の参考になるものと考えます。

沖縄県社協としては、令和2年度から同4年度の3年間の集大成である「手引書」の発刊は、市内の法人・施設間連携による協働実践を一層推進し、地域共生社会の実現につながるものと期待しております。

本手引書を通し、那覇市における複数の社会福祉法人が連携・参画する地域貢献活動の輪が広がれば幸いです。

## 1. 「社会福祉法人等の地域貢献活動」が求められる理由(経緯)

### ① 私たちの暮らしに起こっている様々な困りごと (地域の福祉課題)

#### 1. 孤立死防止

孤立死の割合が全国でも高い。那覇署管内で年間100件以上。自殺者の割合は40～65歳代が全国ワーストで、地域福祉計画では、地域自治会、民生委員児童委員、福祉協力員で地域見守り隊を結成し、1人の不幸も見逃さない運動を推進しているが、より地域に密着している施設の力も求められている。

#### 3. 地域福祉の担い手の欠員

那覇市社会福祉協議会、民生委員児童委員が現在の形になったのは、本土復帰後の1972年からで、現在民生委員の欠員状況が高く(502名中315名※2023年2月現在)地域福祉の推進に支障を来している。具体的に地域の困り事を把握する担い手に対して、福祉と専門的な教育の場が求められている。

#### 5. 生活困窮者への

##### 持続可能な食料支援・就労支援

那覇市の生活保護世帯は、戦後以降増加し、単身世帯の高齢者や子どもの貧困が社会的な課題になっている。

#### 7. 様々な福祉ニーズに対応する連携推進

ひきこもり、ニートの実態が全国的に増加している。また、高齢者の交通不便地域や交通アクセスの環境不備による課題もある。現在社会を象徴した福祉ニーズでありながらも、相談機関は南部保健所ひきこもり支援センターのみとなっており、本会としても取組について、関係機関、社会福祉施設等と連携する必要がある。

#### 2. コミュニティづくり

戦後78年経過した今も、戦前まで移り住んでいた住民が混在し、自治会の基盤がまだ整備されていない状況で、自治会加入率が約16%と年々低下しており、地域福祉推進に支障を来している。近隣住民同士、世代間交流、ボランティアの集会等居場所としての施設機能が求められている。

#### 4. 権利擁護の仕組みづくり

少子高齢化・核家族化に伴う独居高齢世帯の増加、8050世帯及び認知症高齢者の増加により判断能力の弱い市民が増えている。それを支える家族機能が弱まり、支え合いの機運づくりが強く求められている。施設の専門性を活かした身近な相談窓口が必要とされている。

#### 6. 社会的養護の必要な子ども、

##### 孤立しない育児への対応

社会的養護の施策は、かつて、親がいない、親に育てられない子どもへの対応であったが、虐待を受けて心に傷をもつ子ども、障害のある子ども、DV被害の母子などへの支援を行う施策へと役割が変化している。更に、本来大人が担うとされている家事や家族の世話などを日常的に行っている子ども(ヤングケアラー)が著しく増加している。このような状況にスピード感を以て地域社会における社会福祉施設の可能と思われる地域貢献が求められている。

## ② 社会福祉施設の地域貢献活動を必要とする背景

#### ア. 少子高齢社会が、私たちに影響すること。

我が国は、少子高齢社会であり、2040年には、一人の高齢者を、1.5人の若者世代が支えなければならない。福祉や介護、医療従事者の担い手不足は否めない。社会福祉施設の強みとしての、専門職による相談、福祉教育、施設の場の提供等、施設の力を発揮していくことが求められている。

#### イ. 戦後の那覇市の社会福祉の課題は、一貫して生活困窮世帯への支援であった。

那覇市の生活保護世帯の推移で見ると、平成26年度時点で30% (1000人に30人が保護受給者) から平成30年度になって40% (年度平均9836世帯12,745人) に達した。毎年、赤い羽根募金(歳末たすけあい運動)の一環として、生活困窮世帯への見舞金支給(生活保護世帯を除く)を実施している。令和4年度も民生委員児童委員、相談機関を通して155世帯(2,095,000円)の支援を実施した。民生委員児童委員の欠員や、個人情報保護法による民生委員の地域訪問の困難さが相まって、生活困窮世帯の潜在ニーズの掘り起こしが課題になっている。

#### ウ. 新型コロナによる感染拡大は、市民生活を震撼させた。生命を奪うだけでなく、緊急事態宣言は経済へ大打撃をもたらし、多くの市民が生活苦の状況となった。(令和2年3月～令和4年9月末まで)

NO	新型コロナ特例貸付緊急小口資金・総合支援資金(初回、延長、再貸付)			市町村構成比	
1	合計件数	42,042件	貸付金額	165億4020万円	那覇市件数 28% 金額 27.7%
2	合計件数	150,208件	貸付金額	596億2758万円	沖縄県件数 100% 金額 100%

エ. コミュニティソーシャルワーカー(以下「CSW」とする)の活動経過の中で、福祉の専門分野を得意とする社会福祉施設に地域活動が見えてきたことから、社会福祉大会において、地域共生社会における社会福祉施設の取組としてシンポジウムを開催した。県社協はサンクス運動の一環として、社会福祉法人等社会福祉施設の小規模法人ネットワーク事業の打診があり実施の運びとなった。那覇市社協事務局としても、高齢者部門、障がい者部門、児童部門、地域福祉部門と地域ニーズの概要を整理しネットワークにおける取組を意見交換する中で協議してきた。

オ. まずは、社会福祉施設(市内400有余)とつながるを目標に、地域貢献活動の場づくりから始める。具体的には、長期戦の取組みとなるフードドライブ運動を身近な地域の(社会福祉・医療)法人が食料支援運動を始めること。相談というハードルを下げて、小地域におけるおすそわけ運動の輪を小学校区毎に(社会福祉・医療)法人等に位置づけること。また法人の専門分野を活かし相談、食料、福祉教育、居場所、社会参加就労、移動サービス、その他地域支援、チャリティー企画等、今後出来る取り組みに、多くの市内法人施設が入会の際に参加しやすい地域貢献活動への機運が高められるよう工夫していきたい。

2022年12月 那覇市社会福祉協議会

### ③複数の社会福祉法人等施設が連携・協働する意義

社会福祉法人等施設「ちゅいネットなほ」は、那覇市内の社会福祉法人等施設が地域関係機関と連携して、生活課題の解決を図る取り組みである。

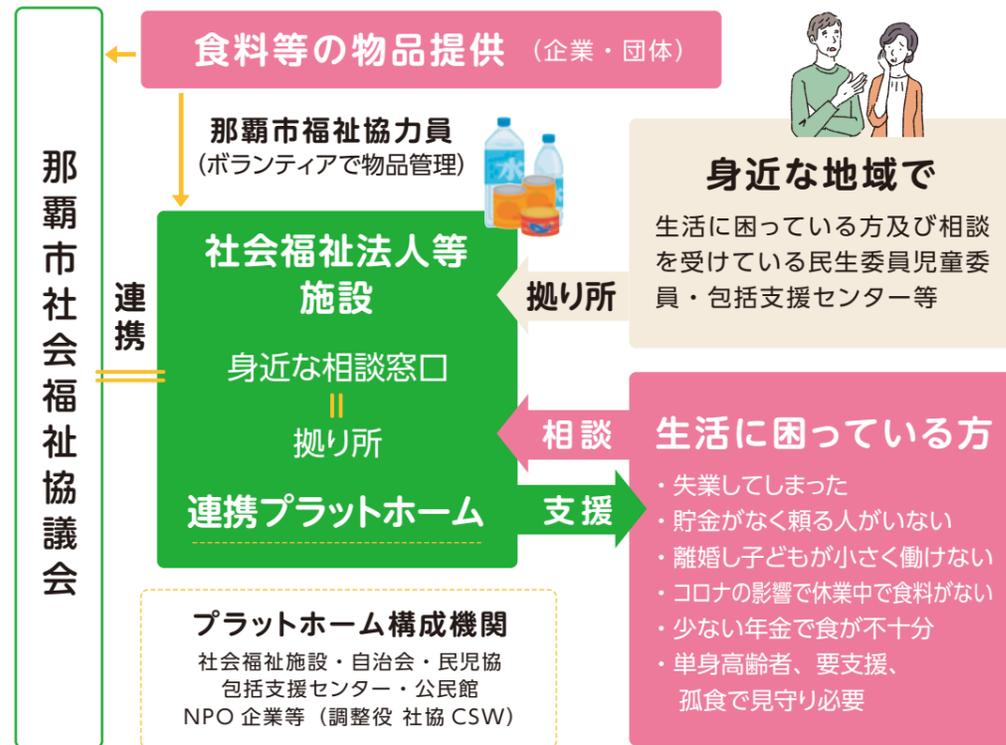
#### 点の活動を面で支える

これまでの社会福祉制度では解決の困難な課題が、県内では「制度の狭間」として、浮き彫りになっており社会福祉法人を始めとした関係機関が連携して課題解決を図る仕組みが求められている。

那覇市内では、400を超える社会福祉施設が存在しており、児童分野、障がい分野、高齢分野、など得意とする分野をもっており、それぞれの強みや専門性が異なっています。それぞれが、点で行ってきた活動に、多様な強みを共有することで、複合的な課題を解決するための活動を展開することが出来る。

### 社会福祉施設全体で取組む那覇市の地域福祉課題共通の目標

身近な相談窓口(気軽に立ち寄れる拠り所)と食料支援の一体化



#### 社会福祉法人等の資源を積み上げる

一つの法人で制度の狭間の問題に割く資源は限りがある。それぞれの社会福祉法人等の施設が持っている人、モノ、カネなどの社会資源、長年培ってきた専門性やネットワークを構築することで法人の力は大きなものになります。市内にある法人の資源を積み重ねることで、解決困難な課題に解決を図ることが出来る。

#### 社会福祉法人等の施設の活動を可視化して、地域福祉につなげる。

これまで、各法人が地道に取り組んでいる活動を、広報誌やホームページなどの媒体を通じて、広く周知・情報提供を行っていくことで、法人の存在や活動を可視化する。

こういった取り組みを通して、法人の存在意義を再認識させることだけでなく、支援が必要なのに、支援の届いていない多くの住民に届けるきっかけとなり、社会的孤立のない地域づくりにつながっていきます。

### ④活動の位置づけ(根拠)

社会福祉法人等施設の地域貢献活動「ちゅいネットなほ」は、各法人が自主的に実施することを基本とし、地域公益取組(改正法第24条)や地域公益事業(改正法55条の2)を包含し、更に広い意味を持つものとして位置付けている。



#### 根拠となる法律

改正社会福祉法第24条では、全ての社会福祉法人が責務として「地域における公益的な取り組み」を行う事を規定しました。

【改正社会福祉法第24条】  
社会福祉法人は、社会福祉事業及び第26条第1項に規定する公益事業を行うにあたっては、日常生活又は社会生活上の支援を必要とするものに対して、無料又は低額な料金を、福祉サービスを積極的に提供しよう努めなければならない。

また、通知では、「地域における公益的な取り組み」の3つの要件が示されている。

- ①社会福祉事業又は、公益事業を行うにあたって提供される福祉サービスであること
- ②日常生活又は、社会生活上の支援を必要とする者に対する福祉サービスであること
- ③無料又は低額な料金を提供される福祉サービスであること

一方で社会福祉充実計画(社会福祉充実残額)がある場合に、社会福祉充実計画に基づいて実施する「地域公益事業」は次の条文に定義されている。

【改正社会福祉法第55条の2】  
日常生活又は社会生活上の支援を必要とする事業区域の住民に対し、無料又は、低額な料金をその需要に応じた福祉サービスを提供するもの

## 2. ちゅいしいじい事業(小規模法人ネットワーク化事業)の3年間のモデル事業(地域貢献活動)から見えてきた事

### (1) 那覇市のちゅいしいじい事業の取組紹介

#### 地域生活課題の解決にむけた 那覇市社協と社会福祉法人・福祉施設等の連携・協働の場づくり

地域生活課題の解決に向けた取り組みを行うにあたり、

自組織だけでは対応できない課題もある。

これらの対応にあたって、社会福祉法人・福祉施設がもつ専門性や、

社協がもつ地域とのネットワークづくり等

それぞれの機能・強みを活かすことができる取り組みを協議するため

那覇市では4行政区ごとに「那覇市社会福祉法人等施設連絡会」を設置している。

### 那覇市社会福祉法人等施設連絡会

#### 首里地区

ゆうなの会・若杉福祉会・葦の会・からし種の会  
石嶺児童園・那覇市社協

#### 本庁地区

そてつの会・ポプラ福祉会・うるま福祉会・正清会  
雅福祉会・(一社)ハーネス・那覇市社協

#### 真和志地区

繫多川公民館・地域包括支援センター繫多川・彩風の杜なは  
(一社)沖縄じんぶん考房(国場児童館)・日本赤十字社沖縄県支部  
沖縄南部療育医療センター・おきなわ共生会(繫多川、長田)  
グリーンハウス国場・那覇市社協

#### 小禄地区

看護小規模多機能施設めぐみ小禄南・垣花福祉会・ニライカナイ  
グループホームつぼみ・沖縄にじの会・あやめ保育園  
ペリー保育園・那覇市社協

## ① 行政区毎のプラットフォームの設置

### 首里地区構成施設紹介 5 法人



からし種の会 理事長  
棚原信子 氏

#### からし種の会(障がい)

食料支援・見守り・居場所支援

- ・まち協と社協とのつながりから取り組みを考えている。
- ・地域のために何が出来るかを、常に考えて活動していきたい。
- ・クッキー等を提供し、地域と繋がっていききたい。

#### ゆうなの会 老人ホーム大名(高齢)

福祉教育・食料支援

- ・認知症サポーター養成講座の依頼があれば開催。
- ・ホーム喫茶 月1回施設を地域に開放し、食事を楽しむ。
- 集まりからボランティアや地域の方の居場所となっている。
- ・高齢者施設での職場体験を受け入れることで、社会復帰できるきっかけづくり。
- ・地域講話 栄養士などが食育について話していく。



ゆうなの会  
老人ホーム大名法人事務局 次長  
金城満 氏



偕生会指定管理 石嶺児童園園長  
上原裕 氏

#### 偕生会指定管理 石嶺児童園(児童)

福祉教育・居場所支援

- ・発達障害の問題に対し、専門機関と連携し勉強会をしてみようか。
- ・職員、専門職のノウハウを地域に共有したい。
- ・グランドゴルフで会場を地域の関係者に提供。

#### 社会医療法人葦の会(医療・介護・福祉)

福祉教育・地域活動・健康相談

- ・法人で唯一の社会医療法人。離島での医療もカバーしている。
- ・石嶺まち協に所属している。
- ・グループホームから認知症高齢者が徘徊。  
子供から大人まで、地域のネットワークで無事に保護できた。  
ネットワークの大切さを知った。
- ・石嶺中学校で福祉体験を実施している。→地域の将来を担う、福祉教育が大切。
- ・年金支給日に、健康相談、血圧測定→男性が病院に行っていない事が多い。
- ・医師のノウハウを地域に還元したい。
- ・児童精神の先生が勉強会を地域と連携して開催出来たらいいのでは。



社会医療法人葦の会  
法人連携室長  
名嘉真朝春 氏

看護部室長  
三枝君枝 氏



若杉福祉会 理事  
屋宜貢 氏

#### 若杉福祉会城北保育園(保育・児童)

学習支援・食の提供・地域づくり・卒後の繋がり

- ・大名児童館では無料塾、食の提供大名まち協の事務局として連携。
- ・地域で世代間交流のため、星空、音楽鑑賞コミュニティづくり。
- ・卒園してからのつながりが重要。
- ・地域で育つ子を地域で育てる地域づくり、環境づくりを拡げたい。
- ・障がい分野・高齢分野にも取り組んでいきたい。

# ①真和志地区構成施設紹介 9 法人

## 特定非営利活動法人1万人の井戸端会議(繁多川公民館)

福祉教育・居場所支援・食料支援・不登校支援

- ・子どもの場所→NPOと連携 ご飯を一緒に作る
- ・包括と連携してワークショップ開催→実態調査
- ◎繁多川シェアマーケット60名が参加
- 家の前に不要物を出し合っ分け合う→収益から活動に。
- お金やシェアする物資がなければ大豆の選別などの軽作業。
- ・フードドライブから子供たちへ支援の輪を(課題)
- ・繁多川公民館まで物資を取りに来れない方へ身近な拠点があれば。
- ・真和志エリア全体を目標として活動したい。



特定非営利活動法人  
1万人の井戸端会議  
繁多川公民館館長  
南信乃介氏

## 那覇市国場児童館 指定管理者(一社)

総合相談・福祉教育・その他

- ・家族間に問題あるときは、包括や民生委員、CSWIにつないで、様子を見てもらったりしているので、地域の個別の問題にも関わりの出来る運営の在り方を求めます。



沖縄じんぶん孝房 代表理事  
館長山崎新氏

## 社会福祉法人おきなわ共生会 福祉複合共生施設なんくる

福祉教育・居場所・その他

- ・昨年設立した高齢者施設です。地域連携室を設置し、コロナが終息すれば、地域連携室を設けていますので、地域の皆様の要望に応えていきたいと思ひます。



施設長  
当間順子氏

## 社会福祉法人沖縄中央福祉会彩風の杜なは(障がい・高齢)

福祉避難所・地域交流・居場所支援・厨房機能の活用・福祉教育・食料提供

- ・地域との関わりの機会が少ない
- ・台風時災害等の独居世帯への訪問介護が不可。
- 那覇市と協定を結び、台風時に障がい独居の方の支援を行った。
- ・台風時の避難受け入れをしている。
- ・地域の方へ正月におせち料理を提供出来たらと思っています。
- ・施設のホールを開放、リハスタッフによる介護予防も可能。
- ・ボランティア活動として清掃活動に参加したい。情報が欲しい。
- ・地域のクリーンアップ大作戦を那覇市でもやってみたい。
- ・地域の子供たちとの交流も考えている。



社会福祉法人沖縄中央福祉会  
彩風の杜なは 係長  
國吉俊祐氏

## 社会福祉法人おきなわ共生会(高齢)

福祉教育・世代間交流

- ・地域のボランティアさんの協力でまつりを開催
- ・ボランティアがいれば、重度の車いすの方の外出(海辺の散策等)の希望を叶えたい。
- ・子ども達の福祉体験の場に協力したい



生活相談員  
上原哲也氏



社会福祉法人おきなわ共生会  
介護支援専門員  
仲西チエミ氏

## 日本赤十字社沖縄県支部

福祉教育・防災活動

- ・救急法講習、防災に関する講習などの計画がありましたら、ご連絡ください。
- ・地域では、防災セミナー防災教育を学校や企業等で実施
- ・災害時高齢者支援講習の実施
- ・地域赤十字奉仕団や青少年赤十字の育成、活動推進



日本赤十字社沖縄県支部  
事業推進課長  
池原栄作氏

## 医療法人城南会

福祉教育・移動支援・その他

- ・つどいの場の提供(小規模 momo・アビタン・小規模はんたがわ)
- ・買い物支援(小規模みなみ診療所・デイさつき荘)
- ・認知症カフェ(小規模デイ識名・小規模 momo)
- ・認知症サポーター養成講座(キヤラバンメイト)
- ・セルフトレーニングルーム設置



医療法人城南会 管理者  
濱川尚志氏

## 社会福祉法人乙羽会(高齢)

福祉避難所・厨房機能を活用・福祉教育

- ・国際中医薬膳師が薬膳食を提供している。
- ・職員不足→インドネシアから受け入れ。
- ・子どもたちの福祉体験の場は可能
- ・グリーンハウス国場では、災害時の避難所として開放。
- ・児童園を18歳で退所した子どもたちへ、次の夢をつかめるような奨学生制度を設けたい。



グリーンハウス国場  
施設長  
玉城正史氏

## 沖縄県肢体不自由協会

食料支援・福祉教育・その他

- ・連絡会に関わることで、当法人が無理なく出来る地域貢献活動について考えていきたい。



南部医療センター 総務課長  
池田朝彦氏

# ①本庁地区構成紹介 6 法人

## 社会福祉法人そてつの会(障がい)

福祉教育・学習食料支援・居場所支援・地域交流

- ・H27 地域貢献室 夏休みを利用して古蔵中の生徒もボランティア活動で受け入れ(延べ 2000 名を超える生徒を受け入れ)→受け入れた生徒が新入職員として入社した=福祉教育
- ・ゆいまー塾(パンの無償提供)不登校や学習困難な生徒を受け入れ→高校入学出来るまでにつながった。
- ・那覇市社協とピザづくり教室を実施。真地地域の子供たちが参加。
- ・「山城塾」場所の提供。元校長の山城さんと協働。→学習指導・軽食の提供(20 名程度の不登校生を受け入れ)
- ・多子世帯の子供たちの利用が多い。
- ・毎日製造、販売しているパンを塾生に無料で提供。→1日1食の子どももいるのが現実。
- ・地域の方々からもおにぎりの提供や協力を得ている。



社会福祉法人そてつの会 施設長  
盛島光司氏

## 雅福祉会(保育)

相談・福祉教育・不登校支援・居場所支援・地域交流

- ・平成 16 年に、何も無い新都心で保育施設を開所。児童クラブを運営してきた。
- ・地域のごみ拾いを子供たちと実施。→福祉教育
- ・地域で仕事をしている身として、自治会や民生委員と連携してきた。
- 地域の困りごとと一緒に解決してきた。
- ・中学生と子ども園とふれあい会で、中学生にも良い変化が現れる。
- ・登校しづり支援→愛情を注いで支援。相談窓口が必要だと思う。第 1 子で戸惑いを感じている親、関わり方に困っている親→子どもの性格を理解して子育てすることが大事であり、そのための親支援の場が必要
- ・地域でいつでもだれでも相談できるような場が必要(例-担当区域の民生委員児童委員等で当番制の受け入れ等)
- ・地域柄、転勤族が多く繋がりが希薄している地域。→受け皿が必要。



雅福祉会 理事長  
兼城照美氏

## 一般社団法人ハーネス(精神)

相談・福祉教育・不登校支援・居場所支援・地域交流

- ・自治会設立に協力
- ・かわら版を発行し、見守りを実施。
- ・子どもたちの登下校の付き添いをして、見守りを実施。
- ・通り会で、筋トレをしたり高齢者の課題に工夫を凝らしている。
- ・歩いていける距離で弁当配達をしている。
- ・令和元年の 4 月からは、那覇市樋川 1 丁目の与儀市場通り地域で自治会設立に関わり、事務局を担っています。そして地域情報誌『かわら版』を発行し、各家庭に配達しながらの見守り活動を行っています。



一般社団法人ハーネス 理事長  
嘉手川重一氏

## うるま福祉会(保育)

相談・夜の居場所・食料支援

- ・昼夜併設の保育園を運営
- ・平成 9 年度、県のモデル事業として夜間保育をスタート
- ・国際通りに隣接している当園だが、夜間は 20 名の定員を充足していない。
- ・夜、孤食になっている家庭の子に夕食を提供する「たまこやかん」を運営
- ・コロナ禍で休止していた夜の居場所を令和 5 年度より再開予定
- ・子育てに不安を感じたり、喪失感を覚えたりする方々へのサポート
- ・放置されている児童やヤングケアラーの存在を知り、地域の民生委員等と連携し、サポートしていきたい。
- ・りっかりっか会の再開により、園児との世代間交流も実施



うるま福祉会 理事長  
高良桂子氏

## ポプラ福祉会(保育・児童)

世代間交流・食料支援

- ・地域のお祭りに子どもたちと参加。世代間交流の機会となっている。
- ・警察署、防犯協会交通安全出発式等の園児の参加(交通安全チラシ配り)
- ・親子で給食体験を実施。子育ての悩みなどを聞く場。
- ・地域の銀行・企業、老人センター等を回り、園児が歌を披露一企業の方も園児が来ることを楽しみにしている。
- ・中学生の実習の受け入れ。→将来の担い手。反抗期でも子供たちと触れ合うことで心を開いて、やさしい子に育てほしい。
- ・老人センターとのお年寄りとのふれあい一お年寄りへ元気を与え、子供たちにやさしい気持ちを育んでほしい。
- ・園庭の開放を行いたい。(子育てに不安や悩みを持つ方たちの憩いの場の提供)



ポプラ福祉会 園長  
崎濱恵利子氏

## 医療法人正清会(医療・介護・福祉)

食料支援・学習支援・居場所・福祉教育・医療・学習支援

- ・精神科病院でも、福祉関係の職種が多くなる。
- ・医療の対象者でなくても、切り捨てるのではなく、診断がつかなくても困りごとを吸い上げている。
- ・子どもたちに本を提供。夏休みの自由研究の材料を提供。(南部市町村広域で社協に提供)
- ・非常食の期限を早めに設定し、フードバンクに寄贈。
- ・送迎車で地域の見守りを実施している。
- ・看護学校を目指している方への無料塾を実施。8か所の高校生から社会人まで幅広く利用
- ・看護学校終了後、看護師免許の取得を目指す人を対象に国家試験の学習支援を実施。
- ・重度の障害のある方の写真展の実行委員にボランティアとして関わっている。



医療法人正清会 副理事長  
久田護雄氏

法人本部長  
大城盛博氏

# ①小禄地区構成施設紹介 7 法人

## 千草福祉会(保育)

見守り・社会参加就労

### 1. 地域で貢献していること

- ①コロナの影響前
  - ・障がい者雇用
  - ・シルバー人材センターの活用
  - ・地域のイベントに積極的に参加
- 分類・地域における子育て支援・居場所づくりへの取組

### 2. 地域で今後やってみたいこと・協力出来ること

- ・園児の散歩コースに
- 見守りが必要な世帯の家の前を散歩し声掛け



千草福祉会  
金城佑佐氏

## 有限会社 百栄(高齢)

移動支援・避難訓練

### 1. 地域で貢献していること

- ①コロナの影響前
  - ・包括と共に買い物支援を行っていました。
- ②コロナ禍の現在
  - ・活動は行っていません。

### 2. 地域で今後やってみたい・協力出来る事

- ①コロナ終息に向けて
  - ・包括と共に買い物支援を継続したい。
  - ・地域の方を巻き込んだ防災活動



百栄管理者  
山城正子氏

## 垣花福祉会(保育)

地域避難訓練・民生委員児童委員連携・食料支援・その他

### 1. 地域で貢献していること

- ①コロナの影響前・老人施設を訪問し、お年寄りとのふれあいや地域の花いっぱい運動に参加している。
- ②コロナ禍の活動・園の行事がほとんど中止のため地域活動も行っていない。

### 2. 地域で今後やってみたい・協力出来る事

- ①コロナ禍において・出来る範囲で活動に参加したい。ひき続き地域の行事には協力する。
- ②コロナ終息後・地域での活動や、関りが少ないので連絡会を機会に深めていきたい。
- ・避難訓練を地域の方と実施してみたい。



那覇垣花福祉会  
新里順子氏

## ニライカナイ(障がい)

相談・社会参加就労・居場所・福祉教育・食料支援

### 1. 地域で貢献していること

- ①コロナの影響前・事業所周辺の清掃。ゴミ拾い
- ②コロナ禍においても行っている活動・子ども食堂へのパン無料提供
- ・地域でなじめない子どもたちの受け入れを積極的に実施
- ・生活困窮世帯の親から子供の支援を受け入れ気になる世帯は、行政や民生委員へ繋いでいる



社福ニライカナイ 事務局長  
豊村英氏

## ペリー福祉会(保育)

世代交流・地域活動

### 1. 地域で貢献していること

- ①コロナの影響前・子育て応援デー
  - ・入園前の子どもに親子で保育園を体験してもらう
  - ・うるく童まつりへ子どもたちの出演
  - ・地元自治会、老健施設の敬老会などへ子どもたちの出演
- ②コロナ禍における活動
  - ・防災に強い保育施設づくり、防災備蓄倉庫を整備し
  - 万一の時に子供の目線に合わせた地域防災拠点を目指す

### 2. 地域で今後やってみたい・協力出来る事

- ①コロナ終息後
  - ・地域を交えた平和教育：奥武山公園内、島田観音彰碑前にて琉舞奉納
  - ・当施設借地(ペリーファーム)への畑づくりと地域コミュニケーションの場づくり
  - ・自治会と情報共有し地域の実情に合った活動を意識していきたい。



ペリー福祉会 理事長  
賀数博氏

## 沖縄にじの会(高齢)

居場所支援・食料支援・その他

### 1. 地域で貢献していること

- ①コロナの影響前の活動
  - ・社福減免
  - ・地域のサークル活動へのホール貸出し
- ②コロナ禍における活動
  - ・社福減免・学生の実習受け入れは継続

### 2. 地域で今後やってみたい・協力出来る事

- ①コロナ禍において行える活動
  - ・フードドライブ運動
- ②コロナ終息後やってみたい活動
  - ・地域防災活動に参加してみたい



沖縄にじの会 事務局長  
山城楓氏

## 好縁会(医療)

福祉教育・見守り・地域交流

### 1. 地域で貢献していること

- ①コロナの影響前・8月開所実績なし
- ②コロナ禍・フレイル予防体操教室・人生相談センター(相続問題、高齢者の断捨離等)

### 2. 地域で今後やってみたい・協力出来る事

- ①コロナ禍・暮らしの保健室
- ②コロナ終息後
  - ・地域の困りごと解決隊(特に高齢者)
  - ・自立～要支援者(介護保険利用外)へのおせっかい支援隊(買い物、おそうじ電球取り換えなどの支援)
  - ・当理事長、下山直登による認知症講演会を地域向け実施
  - ・ご近所の高齢者宅を顔なじみとなり、ゆんたくの参加、草木の株分けなどの交流行っている。
  - ・DVによる緊急受け入れの実績あり



好縁会 相談員  
福里ひろみ氏

# ②法人の専門性と施設機能を活かした 地域貢献活動を複数法人連携での取り組み

## ア. 食料提供運動による複数連携

○コロナ禍において、構成員として参加していただけることに感謝しつつ、25 法人が一丸となって取り組みをよびかけたのは、食料提供運動です。

○令和 3 年度は、5000 点を目標に 25 法人が参画し、4064点 17 団体の食料を集め社協を通して生活困窮世帯へ届けた。

○令和 4 年度も、引き続き 5000 点を目標に各法人に食料提供を呼びかけてた所、6048 点集まりました。(2023.2.29)

○真和志地区では、繁多川公民館が、自ら備蓄庫を備えたシェアマーケットを実施している。

○法人保育園保護者連合会(市内80園)は、コロナ禍により、活動休止中だったが、食糧支援活動を 34 園(昨年4園)から保護者からの食料提供があり、保育園保護者だけで 5515 点の食料を集め、保護者会連合会の再結成の契機となった。

## イ. 指定管理指定施設法人(日本赤十字社)と社協の複数連携

本年度は、日本赤十字社が指定管理を受けている安謝児童館が、入浴場が老朽化で使用不可となり、空いているスペースの有効活用から、食料の備蓄庫としての申し出があり、本庁地区を始め、首里地区、真和志地区の繁多川公民館のシェアマーケットと食料の受け取りが身近な地域で広がっていくことを願っています。

## ウ. 福祉施設による福祉体験講話による複数連携

コロナ禍の中において、小中高から福祉のお仕事講話や、福祉体験講座をこれまでは、ボランティア担当者が、マッチング調整に四苦八苦していましたが、ちゅいネットなはの構成法人、もしくは対応可能な法人へ依頼をし、県の福祉人材センターと連携し下記の通り福祉教育の分野の働きかけを行うことが出来ます。また、看護学校合格への無料塾は、多くの病院の希望者を募り、将来の医療従事者となる看護学校合格者を支援しました。

年度	依頼校	派遣法人
2020年 (令和2年)	安謝小 那覇中学校 繁多川公民館防災講話 看護学校合格支援無料塾開校	安謝複合施設 1名 一般社団法人ハーネス 1名 日本赤十字社沖縄県支部 1名 正清会 2名(合格者 10名)
2021年 (令和3年)	石嶺中学校 1年・泊高等学校 3年 看護学校合格支援無料塾	ゆうなの会 1名・ゆうなの会 1名 正清会 2名(合格者 11名)
2022年 (令和4年)	曙小学校 4年生 城東小学校 4年生 城西小学校 3年生 石嶺中学校 1年生 松城中学校 真和志高校 みらい支援学校 通信制 マイン高等学校 真和志第二民児協防災講話 看護学校合格支援無料塾	障がい者就労支援センターグローバ 1名 ニライカナイ 4名 障がい者繁多川支援ロービジョン 1名 ゆうなの会 1名 彩風の杜那覇 4名 沖縄にじの会 1名、ニライカナイ 4名、雅 1名、社協 1名 沖縄にじの会 1名 日本赤十字社沖縄県支部 1名 日本赤十字社沖縄県支部 1名 正清会 2名(合格者 14名)

### ③17 法人がこれまで培ってきた地域貢献活動の紹介

## 「地域との繋がりと場の提供」

平成 16 年に那覇新都心に、社会福祉法人認可をいただいて 17 年目に入りました。当時は建物も少なく、すべてこれからの地域でした。そのため自治会や民生児童委員に積極的に関わりました。私の脳裏に浮かんだのは、この地域での保育園スタートには、園の続く限り地域の方の理解や協力が不可欠になります。地域とつながり、地域を知らないと動くことはできません。自治会活動にも積極的に参加し役員もやらせてもらいました。民生委員も平成 18 年から現在も続けております。特に、今年からは主任児童委員の役割があり、学校との関係も多くなることでしょう。現在はコロナの影響で自粛しています。地域との繋がりを育てるための私が実践したのは、次の項目です。



雅福社会 理事長 兼城照美

#### エ. 移動支援モデル事業

買い物難民などの送迎を支える移動支援について、那覇市社協が実施する生活支援体制整備事業と連携して、移動支援のモデル事業について取り組みました。

また、生活支援体制整備事業の第一層協議体の移送支援の委員会においても 3 名が委員として参画しています。

モデル事業の送迎は、那覇市社協のデイスサービス事業の車両を活用しました。今後は、連絡会以外の近隣の社会福祉施設・事業所も協働で取り組む「おたがいさま移動支援事業」へと発展させていきたいと考えています。

#### オ. チャリティボウリング大会の実施で生活困窮者応援事業における複数連携

令和 4 年度は最終年度として、連絡会の構成施設を巡りヒアリングをしました。この事業がコロナ禍の中で始まり、収束を待たずに終了する中で、施設が社会的課題に立ち向かうには、楽しみながら交流を図る企画が必要ではないかとのことから、「ちゅいネットなはチャリティボウリング」を企画して、令和 4 年度 12 月～2 月末までの期間に、各施設の親睦交流を兼ねて行われました。純益金は、那覇市社協を通して生活困窮者応援活動の支援金として、チャリティ実行委員長（新元時雄氏）から 50 万円贈呈されました。



石嶺中学校での福祉のお仕事講話  
ゆうなの会



沖縄赤十字社沖縄県支部 指定管理施設安謝老人憩の家・児童館内の一部スペースを安謝、曙地区食料備蓄庫（フードバンク）として無償提供



うるま福祉会フードドライブ贈呈



石嶺ハイツ自治会シャレード号の出発式  
（移動支援モデル事業）



久田病院の看護大学合格への無料塾



シャレード号に乗って買い物



ニライカナイの子ども食堂へのパン寄贈



那覇市社会福祉法人立  
保育園保護者連合会会長  
眞栄城隆司（左から 2 番目）



生活困窮者応援  
チャリティボウリング

#### 1 平成 16 年に東原公園の公園里親 自主活動

- ・公園の桜の木を子どもたちと一緒に植樹しました。毎年春になるときれいな桜が見られ地域の皆さんを癒してくれます。
- ・毎月 1 回、公園のゴミ拾いを継続しています。これは子どもたちが公共の場に平気にごみを捨てる子にしないための活動でもある。また、燃えるゴミ、燃えないゴミを分けるのも学びのひとつであり、社会に目を向ける良い機会になっている。

#### 2 赤い羽根募金運動と年末助け合い活動への参加 自主活動

- ・子どもたちの学習は、体験とマッチして生きてきます。参加した子どもたちからの声「先生こんなたくさんのお金は、誰がもらうの、どこへもっていくの」毎年のように聞いてくれます。社会へ目を向ける良いチャンスです。
- ・民生委員の方と一緒に 5、6 歳児が参加しています。この活動も 10 年余になっています。どんなに民生委員の方が大きな声を出してお願いしても、振り向いてくれませんが、子どもたちの黄色い声は“魔法の声”です。

#### 3 地域の触れ合い昼食会での余興の提供

後期高齢者及び独り暮らしの方との触れ合いで、民生委員を中心に行われています。高齢者の方は大喜びで、会場一杯が笑顔であふれます。

#### 4 平成 27 年子ども広場を立ち上げる（毎週土曜日活動）場の提供 自主活動

大学生のボランティアの協力を得て、学習支援、給食支援、パソコンでのゲーム遊び、戸外遊びなどで異年齢との触れ合いを楽しんでおります。



土曜日は、学校も休みで給食がありませんので、午前中は居場所で遊び、食事をしてから、午後は部活動へ参加する 6 年生もいます。

#### 5 子育て支援事業・場の提供 自主事業

- ・12 組の地域の親子が遊びにきます。（月・水・金）300 円払えばランチも仲間と一緒に食することが出来ます。
- ・地域の方に絵本の貸し出しも行なっています。
- ・子育て中の親が孤独感からの解放で友達を求めています。支援事業は、親支援としても力を入れています。



おいしいよ

#### 6 相談事業 自主事業

子どもは自らの環境、人的環境・物的環境とも選ぶことが出来ません。弱い立場である子どもの人権を守るためにも、大人が、親が「気づく」ことが大切ではないでしょうか。気づくためには、地域に気軽に話せる「場」があることが、親も子どもも救うための予防策になると考えます。行政では構えてしまい、わざわざ出向くのもおっくになります。地域にあると気軽に話せるといいですね。地域の学校との連携で親や子どもたちと向き合っています。

#### 7 中学生との交流事業 自主活動

近隣の中学生が授業の一環として、こども園で年に 1 回ふれあい会をしています。兄弟の少ない昨今では必要なことです。今年ではできませんでした。45 分の授業のなかで、20 分は私が地域のおばちゃんとして話して、残りは各クラスで子どもたちと触れ合っています。安岡中学生の 2 年生が参加します。

#### 8 登校しぶり支援・場の提供 自主活動

近隣の中学生の不登校児童を預かり、こども園の幼い子どもたちと関わることで、安心感が得られるようです。子どもは純粋で人の心をのぞいたりしませんので、警戒することもなく気軽にふれあって人的環境・物的環境とも、癒されるようです。朝の 9 時から 3 時まで園で過ごすことができると、授業として認められます。

どんな事業でも相手との信頼関係が育てられないと、継続が難しくなります。特に、大人同士に関係が作られると子どもとの関係はたやすくなります。

# 那覇市社会福祉協議会 コミュニティソーシャルワーカーと からし種の会 アトリエ種子との連携

那覇市社会福祉協議会 CSW × からし種の会

## コミュニティソーシャルワーカー (CSW) とは

地域に住むすべての人を対象に、局内他職種連携により

(1) 生活上の課題を抱える人や家族に対する『個別支援』

(2) 生活課題の解決に向けた地域づくり『地域支援』

など、一体的な寄り添った支援を行っています。

- ・寄り添った支援
- ・地域住民や関係機関と連携した支援
- ・深刻化の防止

個別支援

地域支援

個別支援を地域活動につなげる

個別の課題をキャッチして支援へつなげる

一体的な支援

- ・地域のニーズ把握
- ・地域活動の仕組みづくりや継続支援



## からし種の会 アトリエ種子で 「子どもパン作り教室」を開催!!

- ・地域の子供達を招待して「パン作り教室」を開催
- ・子ども達が気軽に集まれる場所にしたい (SOSの発信の場)
- ・子ども達に障がい者・福祉施設を理解してもらいたい (福祉教育)



地域の子供達を招待 (夏休みの思い出づくり)



パンができるまでの工程を楽しく学ぶ

## 「障がい者・施設」と「子ども達」との交流

「大人になったら障がい者施設で働きたいと思った」(小学4年生)  
「また、遊びに行きたいと思う」(小学3年生)



障がい者・施設が「特別な場所」ではなく、「身近な存在」へ

## 小さなパン作りから将来の夢へ

Aさん女子 (当時 中学3年生)

- ・昨年のパン作り教室に参加。当時は不登校で卒業後は通信の高校へ進学予定だった
- ・パン作り教室をきっかけに物を作る喜びが深まり、デザイン科のある高校へ進学することを決意
- ・現在は高校を休むことなく物づくりの夢に向かい学んでいる



## パン作り教室から広がる 支援の輪

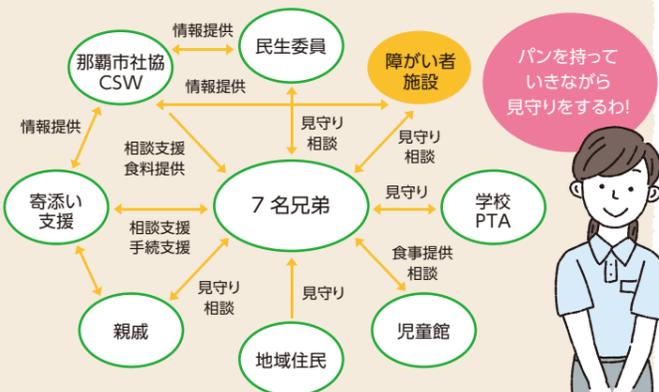
### 様々な課題を抱える子ども達を招待



- ・3歳~28歳までの7人兄弟で生活
- ・一年前に母親の急死
- ・金銭的困窮
- ・長男の病気、長女のうつ
- ・次女の妊娠など、複数の課題を抱える

定期的な訪問で、生活の変化に気付く見守り体制が必要!

### 課題のある家庭を地域で支えるネットワーク



パンを持っていきながら見守りするわ!

# 法人の持つ強みを生かした 地域貢献活動

社会福祉法人そてつの会 施設長 盛島光司



1997年4月に、開設された授産施設そてつ(現・ドリームワークそてつ)は、創始者の古波蔵延江さんが、前身の無認可小規模作業所を1981年に数名の保護者と養護学校卒業生で立ち上げて以来、今年で39年目を迎え、来年は40年目という歴史を持った事業所です。無認可の小規模作業所から法人化までの16年間、財政的に脆弱だった「そてつ」はボランティアや保護者の手弁当の協力によって支えられていたと聞いております。その頃のボランティアが、39年経った今にも引き継がれ、現在の「そてつ」が持つ強みを生かした「地域貢献」に繋がっていると思います。

## 1 古蔵中学校・そてつの会共催 (夏休みボランティア活動) 体験講座の実施

法人化後、すぐに開催され、すでに20年以上の歴史を持つ「夏休みボランティア活動体験講座」。

夏休み期間中の古蔵中学校の生徒さんを「ボランティア」として受け入れ、学校や社会福祉法人、生徒や障がい者の相互理解を促進する為、そてつに通う利用者さんと一緒に作業を行い、交友を深めてもらう事業です。

毎年50名以上の生徒さんを受け入れ、この20年で延べ約1500人以上の生徒さんがボランティアとして参加しています。参加された生徒さん達は、隣接する「ドリームワークそてつ」に多くの障がい者が通っている事や、彼らが毎日熱心に作業に取り組み、普通に会話し、事業所での生活をエンジョイしている様子を見て、驚き、時には感動を持ってボランティア活動に取り組んでいます。

因みに、本年度入職した新職員はこの中学生時代「夏休みボランティア体験講座」の経験をきっかけに障がい者福祉に興味をもち、ドリームワークそてつへの就職を果たしました。

生徒さんと障がい者の相互理解という小さな種まきが20年という歴史のなかで少しずつ、芽が出てきている事を実感しております。今後この活動をつづけ、障がい者福祉への理解を進めてまいります。



## 2 自治会、通り会活動への参加

現在、古波蔵地区自治会2か所(古蔵向陽自治会、古蔵自治会)への地域の活動にも自治会員として積極的に参加しています。

ドリームワークそてつの所在する古波蔵4丁目地区には公民館がなく、地域の集会所として自治会への施設の提供を行っています。自治会の敬老会では、2階の多目的室を提供し、地域の小学生から青年隊もエイサーを余興でお披露目し毎年ぎやかな敬老会となっています。

また、通り会の活動では、「新春餅つき大会」に事業所を開放し、多くの地域の方々と賑わっています。



## 3 リサイクル活動を通じた地域の見守り支援



毎週金曜日、アルミ缶や古紙の回収を地域住民の協力のもと行いながら、地域の見守り支援を行っています。(現在、古紙は中止)見守りと同時に、そてつ利用者と地域住民が関わり合う機会にもなっています。

## 4 無料塾への施設及びパンの提供

ドリームワークそてつでは、毎日1,500個のパンを作っており、販売とは別にパンを無料塾に通う生徒さんに無料で提供しています。

無料塾には私どもが運営する「地域貢献室」を無償で提供しており、中学への通学が難しい生徒さんや学習の遅れが気になる生徒さんが通い、パンをおやつに勉強に励んでいます。今年で3年目となる無料塾ですが、毎年、高校への進学者を輩出しています。

また、地域で運営されている他の塾へもパンの提供を行っています。



## 5 那覇市社会福祉協議会との連携

昨年度、那覇市社会福祉協議会との連携により、夏休みの期間を利用し、ドリームワークそてつのパン工場にて、地域の子供たちを集めて「ピザ作り体験」を開催しました。

初めての体験で戸惑っていた子供たちも、自分でピザを作り、好きな具材をトッピングして、おいしく焼きあがったピザをみんなで食べ、楽しく過ごす事ができたと思います。今後もこの取り組みは継続したいと考えています。



みんなで作った手作りピザ! おいしいよ!

# 地域の関係者とのネットワークづくりに一役買っているホーム喫茶について



社会福祉法人ゆうなの会 法人事務局 金城 満

## はじめに

老人ホーム大名（以下、ホーム）の経営母体である社会福祉法人ゆうなの会は「地域と連携した高齢者福祉の拠点として、高齢者と家族の健やかな生活に貢献します」を経営理念に掲げ、ホームも「地域と共に、ボランティアと共に歩む老人ホーム」を施設運営のスローガンに掲げており、これまで地域と支え合い、助け合う施設運営を行ってまいりました。

ホームと地域との交流は多く、毎月第4金曜日の夜開催される「ホーム喫茶」をはじめとして、毎月第3土曜日に開催される「ふれあい交流会」、首里大名町の地域組織である大名地域福祉推進会と連携して行われる「大名地域福祉大運動会」、「(地域高齢独居世帯等への) 友愛訪問」、「(ホーム入居者の) カジマヤー地域パレード」等の各種行事、その他大名地域福祉推進会、地域の自治会、民生委員・児童委員、ボランティア等の協力を得て行われる「大名まつり」をはじめとするホームの各種行事があります。また大名地域自治会からの要請があれば、ホーム職員のエイサー隊が地域の夏祭りに出演したり、地域の会議や敬老会等の会場としてホームの会場を利用していただくこともありました。

ホームの各種行事やその他ホームを支えてくれるボランティアも含めて考えると、地域の皆様には日頃より何かとお力添えを頂き、感謝の念に堪えません。

今回、地域の関係者とのネットワークづくりを振り返るに当たり、欠かせないのは、普段から地域とのお付き合いを大切に、顔の見える関係で地域とのネットワークを強化させていったホームの諸先輩方の存在が挙げられます。またもう一つの大きな存在が、本日テーマとして取り上げる、地域とのネットワークを強化させるきっかけとなった「ホーム喫茶」の存在です。



大名まつりの様子



幅広い年代が参加する大名地域福祉大運動会



老人ホーム大名のカジマヤー地域パレード

## ホーム喫茶とは

ホーム喫茶は毎月第4金曜日に開催されるパーティー形式の行事であり、ホームの入居者・利用者やそのご家族、ホーム職員だけでなく、多数の地域住民やボランティア、福祉関係者の皆様に参加いただき、美味しい料理やお酒に舌鼓を打ちながら、毎月来るゲストの余興や参加者同士の交流を楽しみにしていただいております。

開催回数は令和2年10月時点で419回を重ね、参加者同士の親睦を深める場となっており、地域の自治会役員や大名地域福祉推進会のメンバー、民生委員・児童委員、ボランティアその他多くの地域住民と職員も加わり、参加者同士がお酒を酌み交わしながら親睦を深め、時には議論を重ねながら参加者同士のネットワークを強化させてきました。

ホーム喫茶が毎月開催されることによって、地域の皆様が自由にホームへと出入りする雰囲気を作り出されて「地域の人が集う場」となり、ホームと地域の結びつきが強くなるのが結果として、地域関係者とのネットワークを強化していくことに繋がり、それが大名地域福祉推進会と連携した各種行事の共催や、地域の皆様がホームの各種行事等に参加・協力してくださったり、またボランティアとして手を貸してくださることに繋がったと思っています。

誰でも気軽に参加できるホーム喫茶だからこそ、地域に浸透した行事となり、施設の理解者・協力者の輪を広げる役割を果たしてくれたのではないかと考えています。



ホーム喫茶の様子

## おわりに

近年は新型コロナウイルス感染症の報道を見ても分かるように、高齢者の重症化リスクの高い感染症であることから、ホーム入居者や利用者、職員を守っていくために、現在はホーム喫茶を始めとする各種行事の開催を残念ながら見合わせざるを得ない状況にあります。また来年にはホームの老朽化に伴う改築工事も控えていることから、これまで通りの地域との交流が難しい状況になりつつあります。

だがこの新型コロナウイルス感染症の猛威が弱まり、また改築された新しい老人ホーム大名が完成した際には、地域との交流を再開し、地域関係者とのネットワークを更に強化して、ホーム入居者はもちろんのこと、地域の皆様が「住み慣れた地域で安心して暮らしたい」というささやかな願いを支えることのできる拠点として、その願いを支援できるような地域連携の在り方を地域の皆様と共に模索していきたいと考えております。

# 精神科に通院する仲間たちとの協力・協働で誰もが安心して暮らせる地域づくりを 与儀市場通り地域でのこころみ



非営利型  
一般社団法人ハーネス  
理事長 嘉手川重一氏

## 地域で必要とされる存在を目指して

非営利型一般社団法人ハーネスは、精神科に通院する仲間たちが地域のニーズに合ったボランティア活動を行うことで、自立と納得のいく社会参加が実現できるよう支援しています。そのため、精神科に通院する仲間たちとの協力・協働で、**①精神障害者等の社会参加の促進と生活支援・就労援助、②高齢者の社会参加の促進と生活支援、③生活困窮者への生活支援と就労援助、④児童等の健全育成事業、⑤動物愛護事業、の課題を事業目的に掲げ、与儀市場通り地域を活動拠点にして『誰もが安心して暮らせる地域づくり』に取り組んでいます。**

## 与儀市場通り地域の今と昔

与儀市場通りは与儀大通りの裏手にあり、たくさんの路線バスが行き交うため交通の便に恵まれています。そのため終戦直後からたくさんの商店が立ち並び賑わっていました。子ども会活動も活発で通りの真ん中で綱引きを行ない、いろんな遊びに講じていました。ところが、時代の移り変わりと共に、シャッター通りとなり若者がどんどん離れ、今では高齢者中心の市場通りとなっています。しかし、その現状を憂う住民同士で、那覇市社会福祉協議会や地域包括支援センター、民生委員児童委員等とも連携しながら毎月定例の「**地域ネットワーク会議**」を開き、少しずつ活気を取り戻しつつあります。

## 与儀市場通り地域見守り隊の結成

2014年12月には那覇市で**4番目となる「与儀市場通り地域見守り隊」**も結成され、ハーネスも積極的に参加しています。**週刊情報紙「かわら版」の全世帯配布**を通して地域見守り活動にも関わって来ました。他にも月2回の地域ふれあいデイサービス「ちむすがりどるる船増原」や月1回のふれあいいきいきサロン「いいあんべー」では健康増進を図りながらの地域見守りも行っています。

## 全世帯参加を目指す地域自治会の結成

2019年3月には、全世帯参加を目指す**自治会費「ゼロ円」の与儀市場通り地域自治会を結成しました。**那覇市内のほとんどの地域自治会で加入率が20%を割っています。中核都市の那覇市は、商業施設も多く、交通網も充実しているなど生活していくうえで不自由を感じることはないでしょう。それだけに煩わしい人間関係を覚悟してまで地域の自治会などに積極的に関わりたいという人が多くなって当然かもしれません。その様な中、全世帯が何らかの活動に参加す

る地域自治会の建設はとても困難な課題と言えます。しかし、一人暮らしの高齢者や子どもの貧困問題など、お互いに支え合える地域自治会は今の時代だからこそ必要な存在です。そのため与儀市場通り地域自治会では、主な活動財源をリサイクル事業に依拠し、精神的にも、経済的にも、体力的にも、負担感の無い地域自治会活動を目指しています。



## 共同売店のオープンと放課後子ども教室の開所も

長い間与儀市場通り地域で営業を続けていた、いわゆる「1 銭まちやぐわ〜」が店主の事情で閉店することになったため、2019年7月1日(月)から**地域の「共同売店」として与儀市場通り地域自治会が継承することになりました。**「共同売店」は、商品の売買だけでなく、地域広場としての役目も担っていて、ユンタクしたり、カラオケを楽しむ人もいます。また筋トレサークルの会場としても活用されています。「共同売店」のオープンと同じ日から放課後子ども教室「チャレンジクラブ」も開所しました。「チャレンジクラブ」では安心・安全を心がけながら、学習や遊びを大切に、異年齢の子ども同士の交流や社会体験などに取り組んでいます。



共同売店でカラオケも

## 新たな地域自治会と小学校区まちづくり協議会の結成を

那覇市内には約150か所の単位地域自治会がありますが、自治会の存在しない地域も少なからず存在しています。自治会の存在する地域でも組織率の低さから自治会の存在感がやや希薄となっています。誰もが安心して暮らせる地域づくりのカギは地域自治会が握っていると思います。与儀市場通り地域自治会において全世帯参加を目指しつつ、他の地域自治会とも連携しながら、那覇市内の全ての地域での地域自治会づくりにも関わっていきたく思います。さらに、那覇市が力を入れている小学校区単位のまちづくり協議会設置の取り組みについても、与儀小学校区まちづくり協議会の貴重な経験に学びつつ、与儀市場通り地域自治会も積極的に協力・参画したいと思っています。当面は、隣接する神原小学校区と城岳小学校区での結成に協力・参画したいと思っています。

# 繫多川地域計画と地域と連携した 繫多川シェアマーケットの取組み

繫多川公民館 館長 南信乃介氏



## はんたがわシェアマーケット

繫多川公民館を利用する人や関係者から「行く場所がない、生活に困窮している、将来に漠然と不安がある」という声が聞こえてきた。コロナ禍に入って、皆が協力し犠牲者を最低限に抑えようと県民も力を合わせている。一方、全世代で起きた生活リズムの変化が支える活動にも影響している。結果的に感染しあうことを恐れて人との接触も減ったことから誰も「孤立」しやすい状況が加速した。繫多川公民館も感染リスクを避けながら人と人が支え合える取組を模索している中で、はんたがわシェアマーケットがスタートした。

きっかけは、家庭のいらないものを提供する様子を放送したテレビを見た繫多川在住の若い女性の提案だ。物を提供することで身近な支え合いができないかという案に、公民館も意気投合し、実践することになった。はんたがわシェアマーケットは、コロナ禍の影響により生活が困窮している方や支援が必要な方を対象に、自宅にある物資を1点以上持ち寄り、必要な物と交換する「物々交換形式」をとった。その場の支給ではなく、会話をし関係性をつくることで孤立を防ぐという目的もあるためだ。また公民館が社会教育施設ということから支え合える仕組みを意識してきた。支援する側とされる側をきっぱり分けずに個人の尊厳も大事にするための仕組みだ。ただ、物を持ってこれない方も歓迎し、公民館の簡単な美化活動や大量にある大豆の選別作業などを手伝っていただいている。

## シェアマーケットには、もう一つ別の役割がある

シェアマーケットには、個人向けともう一つ別の役割がある。それは支援物資の拠点として、訪問支援等、直接手渡せる人が受け取れるようにしていることだ。例えば地域活動支援センターでは高齢者の見守り訪問支援に活用いただき、児童生徒へは普段接している方々へ託している。必要な時に必要な物を必要な人へ渡るのは、顔の見える関係性があったこそだと感じている。

6月17日からスタートし、毎日、利用してくれる人がいるが、物資を提供してくれる人がいなくては続けることができない。那覇市社会福祉協議会から量のあるものは分けていただき、繫多川婦人会のフードドライブ、地元の豆腐屋さんに支援者が発注して届けていただくゆい豆腐、近所のおいしいパン屋さんのパン、近所の福祉施設のフードドライブ、お歳暮のおすそ分けなど様々な方が協力して成り立っている。提供いただく物にもいろんな方々の想いがこもっている。巡り巡っていく物資からは人はどう生きるか、何を大事にして生きていくのかを考えさせられる。

## キャラバン隊スタート

また、コロナ禍においては、こういった支え合いや孤立を防ぐ取組を感染が見られる時期でできるチャレンジを始めて

いる。繫多川公民館での開催だけでなく出張し、地域住民との顔の見える関係を持っている現地のメンバーと共にキャラバンもスタートすることにした。11月15日の県営繫多川高層住宅、12月19日「ウェルカム栄町市場」にて開催し、それぞれの地域で高齢者や子ども達、親子の笑顔がたくさん見ることができた。開催地の自治会や市場の皆さんが温かく受け入れていただいた。私たちだけでは開催することができないが、志を共にする地域の皆さんとなら実施することができた。内容はキャラバンに参加した方々と地域の方々の絆がより深まる機会になるよう企画した。密を避けるため屋外での開催とし、参加の呼びかけも地域に絞った。参加人数も混みすぎず、少なすぎず、ゆっくり会話を楽しめたように感じた。参加同士でも「久しぶりだね元気してた?」と近所に住んでいても、久しぶりの顔を合わせ機会となったようだった。一緒にキャラバンに参加してくれた地域

包括支援センター繫多川(以降、包括繫多川)の皆さんも「コロナ禍でも続けていけるやり方ではないか。来てほしい方が来てくれた。」と話してくれた。来てほしい方と繋がり、その後もフォローできる体制が非常に心強い。



繫多川シェアマーケット イン県営繫多川高層住宅

## アクションプラン「繫多川地域計画」を策定推進(協力: 繫多川自治会)

繫多川地域では独自に包括繫多川さんと「繫多川地域計画」(協力: 繫多川自治会)というアクションプランを策定し進めている。10ほどあるアクションの中でも高齢者や孤立を防ぐような、ご近所の気掛け合える取組は2020年度の最重要アクションとなっていた。その基盤があったことで単発的なキャラバンでも人と人が繋がる場を促すことができた。地域にいるコーディネーターが繋がり、それぞれのネットワークを活かし、孤立を防ぐ取組を今後も進めていきたい。公民館では普段の利用者に加えて遠く宜野湾市から利用する方や様々な事情を抱えている方も来館するようになった。またスタッフも地域の中で気になる方々やその些細な変化に敏感に情報交換するようになっていく。それぞれの地域拠点、アンテナを張って感染防止に務めながら、セーフティネットを張る必要があると感じる。そこで出会った人との小さなチャレンジを応援し、自己実現につながるような公民館運営も重要だ。今後も真和志地域を中心に、自治会や包括支援センター、社会福祉法人の方々とも連携してできる事を積み重ねていきたい。



繫多川婦人会

# 石嶺小学校区まちづくり協議会福祉部会とオリブ山病院の地域貢献



社会医療法人葦の会 法人連携統括室長 名嘉真朝春氏

## はじめに

2011年3月11日の東日本大震災からこの3月で10年が過ぎた。3.11のあの日、大地震と津波の災害のニュース映像が放映され、日本だけでなく世界中が驚き、日本各地及び海外からも医療支援や、がれきの撤去、人命救助、ボランティア等のグループや個人が東日本に向かった。日本中いや世界中が大きな輪となり、震災後しばらくこの日本には強いつながりができて大きな痛みをみんなで背負い、みんなで協力しようとし国民全員で寄り添う機運を高めていった。あれから10年経ち、この国の今はどう変わったのでしょうか。

## 石嶺まち協の誕生

そのような大震災の、4か月後の2011年7月に「まちづくり協議会発足」の総会、その数日後、看板設置のセレモニーに当時の市長も出席、石嶺中学校の吹奏楽部の演奏と町内の関係者が集まり「石嶺小学校区まちづくり協議会」が正式にスタートしました。

那覇市首里石嶺町には公立や民間の児童施設、障がい者施設、高齢者施設のほか沖縄県総合福祉センターなどの施設が集まっていて、毎年8月には、各施設や地域の団体等が合同で「石嶺地域福祉祭り」を実施する等協力体制ができて「福祉村」と呼ばれてきた。



福祉部会



石嶺小学校区まちづくり協議会福祉部

## 福祉部の活動

まちづくり協議会には、広報部、環境部、子ども育成部、福祉部会の4部会ができた。その後商工部会が加わりました。その福祉部会は、民生委員、社協、福祉関係者で構成されて、毎月の部会を開催してきた。その中から、要望があり石嶺中学校を訪問し、車いす体験、アイマスク体験等を毎年行い、さらに技術を高めるため、秋に2日間の福祉体験(職場体験)を30以上の事業所の受入れ協力により実施しています。また去年は、オリブ山病院の精神科医3人

がクラスごとに「認知症サポーター養成講座」を行い、全員に那覇市からのオレンジリングが贈呈されました。寿命が伸び社会全体の高齢化が進む中、身近で健康相談ができるように、石嶺町内の琉銀、沖銀、JAの各銀行に場所を依頼し、年金支給日に午前9時から2時間、健康相談コーナーを開いて、担当(看護師等)を配置、血圧測定、血流測定・骨密度測定等を行い、年々相談者は増えています。



石嶺中学校福祉体験



健康相談コーナー



石嶺中学校 認知症サポーター養成講座

## オリブ山病院の地域貢献

医療・介護・福祉の関係者が関わるまちづくりの基本は、生活の場に医療・介護・福祉をさりげなく混ぜ込むことです。予防・健診を行うには、住民が病院に行くことはハードルが高く、病院に来てもらうより、身近な暮らしの生活の場に予防医療をおくのが望ましい。人びとが病気になる場所は、病院ではなく、生活の場所にあります。医療者が「まちづくり」をするということは、「治してやりたい」からではなく、「自らの力で良くなっていく」その過程を医療者がそっと支えることであります。これから少子高齢化がさらに進むことも確実で、日本は制度・分野の枠を超え、支援者と非支援者のこれまでの関係を越え、人と人、社会がつながり、生きがいや役割をもち、協力しながら暮らす「地域共生社会」の実現を目標としています。今コロナウイルスの危機に遭遇し、東日本大震災直後のように国民全体で強いつながりをつくる機会があり、「ちゅいしいじい事業」が、新年度に「医療、介護、福祉、行政、社協、地域住民が協力する時代を創ることを大きく期待します。

# 久田病院の地域人材育成の実践活動を通して「沖縄を代表する精神科病院をつくる。」



医療法人 正清会 副理事長 久田護雄 氏

## はじめに

私が7年程前に広報戦略委員会を立ち上げた時に掲げた目標です。今言うとその程違和感を持たれないかもしれませんが、当時は「こいつ何言ってんだ?」「精神科病院でつぶれるとしたら久田病院か〇〇病院でしょ?」と陰に陽に言われていました。ただ、私は本気でできると信じていました。「理由は?」と問われたら一番は自分の感覚がそう感じているからだとなってしまいます。定性的にいうと他の精神科病院と自院のスタッフを比べた時に劣っていると感じたことがなかったからだということになります。これだけのスタッフがいるこんな事言われるのは経営(マネジメント)に問題があるだけでスタッフの問題ではないと思っていました。中日の監督に落合氏が就任したときに「現有戦力の10%の底上げで優勝できる。」と仰っていましたが当時の私も同じ心境でした。

を諦める方が増える可能性があったからということもあります。自分ではどうにもできない要因のために夢を諦めてほしくなく、何かできることはないかと以前から考えていたので、**完全無料という形となりました。第二に地域のためにできることをしたいと考えたからです。地域貢献に関しては、これまでも子供の居場所への寄付等を行ってききましたが、直接の貢献を行いたいとずっと考えていました。**

初年度となる今回は、高校生を中心に一般の社会人の方や他の病院で働いている方にも受講いただきました。世代を超えた交流ができるのは大きな意義があると感じました。高校生にとってはすでに病院で働いている方と話し、共に学び、試験勉強だけでなく学びが多くあったようです。**合格実績としては県内、県外合わせて7名の方に合格いただけました。**常勤講師が私と大城しかないため少人数しか受け入れられないのですが、そのため受講生同士の結びつきが強かったように思います。このまま塾を継続して塾出身者同士のネットワークができてくれたらと思いました。そうすれば各医療機関や福祉介護施設等に就職した後に信頼関係のあるネットワークが既にあるので、連携がとりやすくなるからです。地域連携の肝はどれだけIT化が進もうがアナログな人間関係にあると考えています。この事の実現のため出来る限り無料塾を継続したいと考えております。



無料塾の学習様子

## 今後の目標

また、私自身は数学科出身ですので、無料塾を看護、医療系への進学のみならず理系へ進学希望の方の数学指導まで広げられたらと考えています。**グローバル化、IT化が進む中で理系人材の育成、理系人材のネットワーク作りが明らかに遅れているし急務だと考えているからです。そこまで到達することが地域人材育成での私の目標です。**

新型コロナウイルスとの戦いは終わりが見えなく閉塞感が漂ったりしていますが、明けぬ夜はないと信じ皆様と共に乗り越え、地域貢献を行っていきたくと考えております。



久田病院

## 適材適所の人材配置

久田病院が明確に成長軌道に乗るきっかけとなったのは5年前に看護部の大城(当時病棟の主任)が看護部長に就任してからです。彼はそもそも私より先輩であり仕事でも人望もありました。だから部長になってもらったのですが、ここで言いたいことは、**慣習などにとらわれず、適材適所に人材を配置し力を発揮してもらえば法人も劇的に成長できることを実感したことです。**大城は当時の看護部という10人抜きくらいで部長に就任しています。この5年間は「久田病院にはできないよ。」と言われたことを大城と共にやり、達成してきた5年間でした。



看護部長 大城盛博 氏

## 無料塾について

さて、地域人材育成の話ですが、当法人でその話となると今であれば看護学校進学を目指す方のための無料塾のことになると思います。無料塾はもともと昨年1月頃に大城に「一緒にやりませんか?」と声をかけ、了承をもらって諸々の準備をして6月頃にスタートしました。

## 無料塾を始めた理由

大きく分けると二点あります。まず**第一に進学のために塾へ通うのはお金がかかり、そのために進学を諦めてしまうのが余りにも勿体ないと考えたからです。**さらに昨年は新型コロナウイルスの感染拡大で世帯収入が減り、例年以上に進学

# うるま福祉会の夜間保育等の実践を通して



社会福祉法人うるま福祉会 理事長 高良桂子 氏

## うるま福祉会の沿革

高度成長期の真っ只中、無認可保育園を立ち上げて半世紀になります。

当時は、労働力不足で女性の社会進出に大きな期待が寄せられていました。国際大通りや平和通りに隣接している当園は、幼児を抱えて働く若い母親達の救世の場となりました。児童の健全育成は児童福祉法に則った公的施設としての位置づけで、人的、物的環境を整えた中で育てていくことが望ましいとの強い思いから、1980年に法人を設立し、翌年認可園としてスタートいたしました。初代の理事長は、日頃から「地域のために寄与したい」という思いを口にしていましたので、叙勲を受けたことが契機となり法人化が実現いたしました。理事長の思いを受け、地域のニーズに応えるべく、延長保育、一時保育、休日保育も実施いたしました。

1997年太田県政の頃、第三次産業の盛んな沖縄に夜間保育園が必要とのことで、市を通して打診があり県のモデル事業として、夜間保育に取り組みました。最初10名程度ということでしたが、近郊の市町村からの利用者もあり、3年目には23名という人数になり、その実績をふまえて老朽化した園舎を建て替え2000年4月昼夜併設の保育園がスタートしました。



お誕生会



お店屋さんごっこ

四歳児リレー

## 夜間保育の経過

長年、保育事業を続けていく中、時の流れと共に保護者の就業形態や子育てに対する意識も変わり、子の育ち方も大きく変化してきました。生活が豊かになり物が増えてきたのに心がわびしくなってきたように感じられます。民生委員児童委員を18年経験した中で、社会の歪のなか生きづらさを感じている家庭があることに気づきました。昔は、近隣の人達が「何しているの」「どこへ行くの」と気軽に言葉をかけながら、温かく見守るという姿がありました。そんなコミュニティの中で、どの子どもみんな大切な子として、優しい眼差しが注がれ認められながら立派に育ってきました。

## 夜間の子どもの居場所「たまっこやかん誕生」

夜間保育園を手掛けて21年目になりますが、ここ2~3年定員割れが続いています。飲食関係に従事しておられる保護者が多い事もありますが、三歳になると昼間の方に移って行かれる方もあります。夕食の喫食にゆとりが出て、これを活用したく、夜、一人寂しく過ごしている子ども達に、夕食の提供ができないかと思い、協働によるまちづくり推進協議会の銘菊会長や市社協の「糸」の城間さんにご相談しました。早速、子どもの居場所を見学させていただいたり、集会に参加する機会も与えて下さった事で、夜間の子どもの居場所の必要性を感じました。夜の居場所があることで、子どもの安全確認と孤独感が解消され、また、小さい子の世話をしたり、保育士から生活指導を受けながら、色々な経験を積み、自信を得ることで自己肯定感も高められるという効果をねらいました。そして、2019年2月、「たまっこやかん」の誕生となりました。

予想より利用者は少なかったのですが、やんちゃ盛りの子供達は、夜間の園児達と楽しくお食事をしたり、入浴後は、自分の好きな遊びを楽しんだりと有意義な時間を過ごしていました。

## コロナ禍の終息に向けて

昨年の一月末頃から、新型コロナウイルスが流行し、感染予防のため自粛中です。その間、利用したいとの問い合わせは数件ありますが、今しばらく実施を見合わせているところです。

今、コロナ禍により、生活様式が大きく変化している状況の中、疲弊しているご家庭も多々あると思います。だから、早く子ども達の受入れをせねばならないと思いつつあと一歩踏み出せずにいます。ワクチン接種への期待を持ちながら、一日でも早い終息を願うばかりです。



シャボン玉遊び



緑ヶ丘公園で

# 地域から必要とされる「彩風の杜なは」を目指して



社会福祉法人 沖縄中央福祉会 彩風の杜なは 係長 國吉俊祐 氏

## はじめに 施設紹介 (事業内容・事業方針・理念等)

社会福祉法人沖縄中央福祉会の基本理念として「明朗」笑顔を忘れず「協調」心合わせて「活発」いきいきと励む「利用者」を我が身と接するべし」のスローガンを掲げ、地域の方々と共に安心して支え合える共生社会を目指し信頼される事業運営に努めています。

当法人の地域交流として、毎年9月頃に地域交流納涼祭を開催し、利用者、利用者家族、地域住民や地域各種団体等を招き交流を図り、運営に関しては地域婦人会や民生委員、介護実習で関わった福祉専門学生や大学生ボランティア等の協力のもと実施しています。

地域貢献活動として、各拠点(北中城村・宜野湾市・那覇市)に相談窓口を設け、相談内容等に応じて職員へ募り提供できる食品を集め、子ども支援団体・生活困窮者への食糧支援や地域独居高齢者支援として自宅の軒柱腐食の修繕作業を実施(日曜大工程度で用務員対応)地域交流も兼ねて清掃活動(クリーンアップ大作戦)へも毎年参加しています。

福祉車両バス無料貸し出し(車両のみ)も行っており、地域の子ども会やクラブ団体、青年会活動等の利用に繋がっています。

又、令和3年1月より買い物に行く移動手段にお困りの方(高齢者)を対象に移動支援(送迎)、介護予防の促進・通いの場を増やす目的で公民館等活用しリハビリ教室をスタートしました。



納涼祭



クリーンアップ大作戦



リハビリ教室

## 彩風の杜なはでの活動として

生活介護センター彩風の杜なはでの活動に関しては、台風時災害等の障がい独居者の避難受け入れを実施しています。今後は那覇地区においても移動支援、地域関係者ネットワークづくりや地域住民との関わりを積極的に図り、地域が必要としている支援を見出し取り組んでいきたいと考えています。

## 災害時福祉避難所とは

平成26年11月 那覇市と協定締結

福祉避難所とは一般の避難所(公園・運動場・学校・体育館等)での生活に困難が生じることが予想される要配慮者(高齢者・障がいのある方・乳幼児その他特に配慮を要する者等)を滞在させることを想定した避難場所です。基本的な考えとしては、市から二次避難場所として指定、又は協定締結している施設に要配慮者が受け入れ可能か確認の上で、二次避難所の開設が要請されることとなります。

現時点では、市から「彩風の杜なは」への福祉避難所開設要請は一度もありませんが、有事の際にできるだけ迅速に対応できるように事前準備しておきたいものや受け入れ時の職員体制・環境整備は確認しておく必要があります。

県内では毎年のように台風による被害によって日常生活に支障がでる方(独居高齢者・障がい者)が大勢いらっしゃると思います。彩風の杜なはでは主に生活介護利用者が受け入れの対象になっていますが、事前にご相談頂ければ各関係機関・利用者・ご家族へ自宅環境や自宅での支援内容(居宅サービス等)を確認し、避難受け入れした際には安心して過ごして頂けるように支援・対応を心掛けています。



1F ホール



静養室

## おわりに ~今後の目標~

新型コロナウイルス感染状況の終息がまだまだ見えない中で、1年余り続く制限を伴った窮屈な生活、大きなストレスや不安を抱え過ごす日常でコロナ禍以前の生活を取り戻すには、早急に求められているワクチン接種や継続実施してきた感染予防対策、これまで以上の意識改革が重要だと強く感じました。

今後の「ちゅいネットなは」地域貢献としての取組ではコロナ禍であっても地域の皆様が安心して生活を送り、幸せを多く感じられるような仕組みづくりができればと考えています。各関係機関・構成施設の皆様と協働し、地域の困りごと・課題解決へ向けて積極的に取組み、地域から必要とされる彩風の杜なはを目標としていきたいと思っています。



彩風の杜なはの職員

# エンタメと福祉でまちづくり

社会福祉法人若杉福祉会 理事 屋宜貢 氏



## 若杉福祉会の紹介

当福祉会は大名地域のニーズに応える為に昭和52年に保育所を設立、今年で44年になります。これまで地域の児童福祉に寄与し、より良い環境の中で心身共に健康な乳幼児期がおくれるようにまた保護者さんが安心して働けることができるように事業展開しています。平成19年には那覇市より保育所を受託し城北保育園としてスタート。平成32年1月に大名児童館の指定管理者として運営スタート。近年では誰もが暮らしやすいまちづくりを目指し、積極的に地域プロデュースに取り組んでいます。その一貫で「那覇市制100周年記念」市民ごちゃまぜミュージカルをプロデュース、次の100年に残る舞台を通して、世代を超えた創造の喜びを共有し、子どもからお年寄りまで、障がいの有無や国籍を超えて、ごちゃまぜになって歌と踊りを通して賑わいのある魅力ある那覇市を県内外へ発信していきたい。舞台本番は2022年2月13日(日)。ぜひご家族・友人同士でご鑑賞してください。「那覇市民ごちゃまぜミュージカル」で検索

がり7/3は首里地区3か所で開催。そこからさらに広がり7/20、8/3は那覇市内11ヶ所の校区まちづくり協議会(大名、石嶺、城東、城南、城西、若狭、曙、天妃、真和志、金城、小祿南)が参加し、8ヶ所(大名、石嶺、首里、若狭、繁多川、小祿南、真和志支所、市社協)にて高齢者ワクチン接種予約のお手伝いを実施しました。地域課題解決に向けて、更に細かなところまでお手伝いが行き届くためには校区まちづくり協議会や民生委員など関係機関との連携が最重要だと認識した活動でした。



ワクチン接種予約のお手伝い(石嶺公民館)

## 地域福祉の拠点づくり

園児や保護者、地域、卒園児との関係を深く継続し、地域福祉の拠点としてみんなで子どもたちの成長を見守り続けられる環境をつくっていただければと願っています。



卒園した保護者役員との BBQ 大会



卒園児企画の BBQ 大会での水遊び(当時小6)

## 那覇市校区まち協による高齢者ワクチン接種予約お手伝い(「近所で近助」ワクチン接種支援プロジェクト)

ワクチン接種予約が取りづらいなど、多くの声が聞かれたため、大名小まち協と私ども福祉会合同で大名児童館にてワクチン接種予約のお手伝いを6/22に実施。課題や必要性を再認識し、首里地区の各校区まちづくり協議会へと広

## 地域の法人だからできる柔軟な対応 大名児童館(無料塾等)

コロナ禍で子どもたちの塾通いなど経済的に厳しいという相談があり、大名小校区まちづくり協議会と合同で誰でも気軽に参加できる無料塾を夕食付で週1回実施し、口コミで広がり毎回定員20名を超える人気事業になっています。また中高生から軽音楽の練習場所を求める声があり、2階の映写室を防音工事して小中高生のバンド練習の場として提供。児童館で主に練習している高校生「ヒカリバンド」が県内の大会で優勝するなど活躍。たくさん的高校生バンドが通うようになり、高校生が小中学生に勉強を教えており、様々な行事に積極的に手伝いをする良い環境が生まれてきています。



ヒカリバンド(高校2年生)



週1回の無料塾の様子

# 誰の中にもある赤十字のこころ

日本赤十字社沖縄県支部 事業推進課長 池原栄作 氏



## 赤十字って何なん!?

みなさんにとって「赤十字」は、どんな存在でしょうか、、、身近なところでは、「献血（血液センター）」や「赤十字病院」などが多くの方々に認知していただいていることと思います。

赤十字は、約 150 年の歴史と世界最大のネットワークを持つ国際的な民間の団体で、赤十字の基本原則「人道・公平・中立・独立・奉仕・単一・世界性」（7原則）のもと、いつでもどこでも人道的活動を迅速に行うための組織です。

県内には、赤十字病院（医療事業）、赤十字血液センター（血液事業）、安謝福祉複合施設（福祉事業）の施設があり、各事業とその他の事業を担う支部事務局があります。

事業概要

- 国際活動
- 国内災害救護
- 看護師等の養成事業
- 救急法等の講習
- 赤十字ボランティア
- 青少年赤十字

災害時避難所での活動

## 寄り添い、苦痛を軽減する

支部事務局では、救急法等の講習普及事業、赤十字ボランティアの育成事業、国内災害時における救護活動（赤十字病院常設救護班）が主な内容となっています。

これらの赤十字支部で担う事業は、皆様方からお寄せいただく寄付（活動資金）により行われています。主なものとしては、地震や台風などの災害で避難所などへ避難された方々へ届けられる救援物資の整備や救急法等の各種講習会の開催などがあります。

コロナ禍においても、災害はいつ起こるかわかりません！ 昨年の令和2年7月豪雨災害において、赤十字病院の救護班2班を派遣し、また、令和3年6月末の大雨の際も支部事務局から救援物資を複数の避難所等に届けました。

救援物資

- 【毛布】(災害用)
- 【タオルケット】(災害用)
- 【救急セット】(災害用)
- 【救急セット】(災害用)
- 【ブルーシート】(災害用)

救援物資配送前の詰め込み

いつ起こるか分からない災害に備え、赤十字は防災教育にも力を入れております。

防災セミナーや災害時高齢者支援講習等、学校や会社、自治会等の要望に応じ開催しています。

ただ、昨年より沖縄県庁のコロナ対策本部への支部事務局職員を断続的に派遣していることや集団での講習が感染拡大につながる恐れがあることから、当面は各種講習が開催できない状況であります。

コロナ感染が収束して環境が整えば、救急法や幼児安全法等の各種講習会を順次再開してまいりますので、是非ともお声がけ下さい。

不測の事態に備えた対応を、家庭で職場で地域で取り組むことにより防災力を高めてまいります！

## 安謝福祉複合施設の紹介

安謝市営住宅の建替事業に合わせて平成10年に那覇市の委託事業として開設されて以来、地域に根ざした施設運営を行っています。介護老人福祉施設（特養 100 床・短期入所 5 床）、老人デイサービスセンター、居宅介護支援事業所、老人憩の家、児童館、シルバーハウジング等の施設が併設されており、各事業の特色を生かした横断的なふれあいをとおして、「世代間交流・施設間交流・地域間交流」を実践しています。小学校や保育所、児童クラブも隣接しており、地域の皆さんに開放された環境となっています。

施設利用者の多種多様なニーズや新しい時代の社会福祉に対応可能な施設となりえるよう、地域及び関係機関との連携を密にし、施設及び地域発展に取り組んでいます。

施設利用者と子どもたちのふれあい



親子ひろばの様子



「自分には救護活動はできないが、寄付なら。。。」「献血は身近なボランティア！」など、「苦しんでいる人を助けたい!!!」という気持ちそのものが「赤十字のこころ」なのです。

# ペリー福祉会の実践と地域連携

社会福祉法人 ペリー福祉会 ペリー保育園 園長 賀数博 氏



## ペリー保育園の足跡

園事務所には 1966 年園舎落成の文字が刻まれた柱時計が今でも子ども達を見守り、時を知らせています。（この柱時計はネジを巻かなければ止まります。）

戦後まもなく那覇軍港にて港湾労働者が増え、誰もが必死に働いている頃、当園の前身である「ペリー劇場」はその港湾労働者の疲れを癒す場所でありました。ある日、ほろりが舞い上がる通りにて米軍トラックによる子どもを巻き込んだ交通事故を目撃した前園長は、事故に遭ったその子の親を探しました。しかし、戦後間もない沖縄は保育園も少なく共働きの家庭の子は、子どもが子どもを見る時代であった。そこで「地域の子どもは地域で守らなければ」という思いでペリー保育園を設立することとなった。

当時は認可外保育園で「どの子ども、どの親にも手を差しのべる」という保育理念の基、重いアレルギー疾患児のために代替え食を探し回り、重い障がい児にはその子に合った椅子やテーブルを手作りで用意する等、様々な家庭事情の子ども達を保育し、2011 年現在の園舎を新築、2015 年社会福祉法人ペリー福祉会ペリー保育園として地域に根差す認可保育園となりました。

## コロナ禍における地域連携

地元山下町自治会へも参加し、今年度自治会ではコロナ禍であるため、昨年に引き続き敬老の日の取り組みとして、80 歳以上の会員へ長寿とご健康を願い、心ばかりのお祝いの品を用意しました。自治会からは菓子折りと盛花を、当ペリー保育園は子ども達と保育士が協力し「ミニハンディモップ」を制作しました。那覇市社会福祉協議会からもご協力いただき「緊急医療情報キット」も合わせて令和 3 年度は 80 歳以上の会員、88 の世帯にプレゼントすることが出来ました。

孫に囲まれて嬉しそうな米寿を迎えた会員



敬老の祝いに緊急医療情報キットもプレゼント



## 防災への取り組み

コロナ禍では様々な行事や取り組みが制限される中で、今できることは何かを全職員で考え子どもに特化した防災活動に取り組むことになりました。非常時の備蓄用品はローリングストック方式を採用し、非常食の試食や AED 訓練等を行います。毎月園児と行う避難訓練内容の中にアレルギー児にはビブス着用にて訓練します。これは万一災害が起こった時、良かれと思って子どもに菓子等を与える人から、アレルギー児を守るために大事な事なのです「自主防災備蓄倉庫」も設置し、子ども達が被災しても安心して過ごせるよう、遊び道具やアレルギー対策等の訓練を行っています。

前園長の思いを継承しながら、「子どもの現在（今）を最も良く生き、望ましい未来（明日）をつくり出す力の基礎を培う」保育園へと精進していくことを目標とします。

ローリングストック方式

普段から少し多めに食材や加工品をストックしておく

日常生活で備蓄を使用し、常に新しいものに入れ替える

ローリングストック

いざという時の食料切れを防止し、災害時も日常生活に近い食生活を送ることができます。

使った分だけ買い足す

日常生活で備蓄を使う



自主防災備蓄倉庫



アレルギー児ビブス着用イメージ



避難訓練の様子



ペリー保育園ロゴマーク

# 小規模法人奮闘記

## 社会福祉法人・企業との連携 からし種の会アトリエ種子

からし種の会 理事長 棚原信子 氏



### からし種の会の粋な計らいに感謝

去る8月16日(月)からし種の会アトリエ種子では、社協、首里地区の民生委員児童委員、子どもの居場所を支援している団体を通して施設の手づくりコロッケバーガーを、100個(34世帯)届けて子どもたちの手に渡って喜ばれました。(民生委員57個12世帯、子ども食堂43個22世帯)

配達の前に、民生委員・児童委員が集合し、出発式を行い、理事長の棚原信子氏から、「一昨年、地域の子供達を招待してパン作り教室を開催しました。コロナ禍で昨年は断念しましたが、今年は交流の仕組みを変えて、子供達に施設で作ったコロッケバーガーを食べてもらおうと思い、つくりました。喜んでいただけたら幸いです。」「地域の方々と触れ合う、笑顔あふれる場所にしたい」と想いを語ってくれました。首里第3民児協の小笠原文子会長は、「いつも見守り活動にはご協力をいただいています。今回も粋な計らいに感謝しています。」と話されました。

この取組の前進である、子どもパン作り教室は、社協も、子どもの居場所支援に関わる「糸」やCSWも協力し、施設が気軽に集まれる場所(SOS発信の場)、こどもたちに福祉施設を理解してもらいたい(福祉教育)と好評でした。

夏休み、思い出づくりとして、障害者施設が特別な場所ではなく、身近な存在として、ひいては参加した子供たちが、不登校の子のモノづくりへの意欲をかきたて(デザイン科)高校進学など将来の夢へつなげるきっかけにもなりました。



手作りコロッケバーガー 100個贈呈式



民生委員・児童委員から子供たちへ届けられた



### 企業とのコラボ企画 功を奏す

首里平良町に店舗を構える便利な街の電気屋さん トレンドとなみ(代表者 西平明)では、6月より、地域貢献の一環として、近隣福祉施設であるからし種の会アトリエ種子のパンを買い取り、自らの電気店舗で、アトリエ種子のパンを店頭販売しています。

激化する家電量販店のなかで、障がい者の作るパンを通して福祉施設の啓発に一躍を担っています。高齢者への電球一本でも取り換えるフットワークと家電に苦手な主婦や高齢者がパンを買いに来るついでに身近な街の電気屋さんとして相談が出来る機運が高まっています。今後は、他のお店にも就労支援所を支援する取り組みを期待したいです。



トレンドとなみ(中央は代表西平明氏)でのアトリエ種子のパン販売の様子

### 地域の憩いの場として 高齢者の居場所に提供

地域包括支援センター大名では、地域の身近な憩いの場として拠点を探していたところ、障害者の就労支援施設、からし種の会アトリエ種子は、「世代を超えた交流を通して、互いに思いやり、助け合う居場所を作りたい」との想いから、休みの日に2階の作業場を提供し地域包括支援センター大名の事業に協力しています。

認知症カフェ(さんて・カフェ)として毎月第1土曜日(2019年2月開始)の午前中に開催され地域の高齢者からは大変喜ばれています。地域包括支援センター大名の仲里衣愛所長は、「地域で福祉施設が活用できるのはとてもありがたいです。おなじ福祉施設として様々な相談にも応じて頂けて助かっています。」と話していました。



さんてカフェの様子 さんてカフェはフランス語で健康

# 全世代型の福祉支援と地域公益的取り組み

社会福祉法人ニライカナイ 法人事務局長 豊村英 氏(左)  
地域連携室 室長 玉城恒 氏(右)



### 社会福祉法人ニライカナイの紹介

当法人は昭和63年に設立認可され南城市大里に障がい者支援施設「<sup>こうせいのむら</sup>鶴生の叢」として開園し34年になります。これまで、当法人の基本理念である「障がいがあっても一人の人間としてその人なりに幸せな人生があるべし」を念頭に、地域に根ざしたイベントや日課活動、サービス・支援、人財育成を行いながら相談支援事業・デイサービス(生活介護事業・就労継続(B型・移行)支援事業・放課後等デイサービス事業)グループホーム等々を開所しながら事業展開しています。

平成23年には、那覇市小禄を中心にデイサービス(生活介護事業・児童デイサービス)を開所し、現在の「こども発達支援センターのびと」「生活介護事業はいびす」「就労センター大樹那覇 カフェ hoccoriPon」と事業展開し、乳幼児期(0歳~6歳)~学童期・児童期・青年前期・青年後期(7歳~18歳)の児童全期を保護者様・関係機関・当事業所で協働子育て支援し、卒業後は地域社会への就職・就労継続支援(A型・B型・就労移行)・生活介護事業につなげながら全世代型の福祉サービスの提供や全事業所協働でのイベント開催等を行っています。

### 就労実習・体験等を通して 卒業後のイメージ作り

児童デイを利用している児童、支援学校の生徒や地域の方々の実習や体験の受け入れを行い、就労に対する意欲や社会に出る前のマナー・スキルの向上に努め、卒業後や仕事に対するイメージ作りを行っています。地域から相談があり、就労継続A型・B型でつながり徒歩やバス・自家用車で出勤される方も増えています。

- 就労継続A型:主に利用者様や職員等の昼食作り、パン・ピザ販売等の接客業務
- 就労継続B型:主に施設外就労(アパートなどの清掃) 手工芸・外部受注作業など



### 地域公益的取り組み

①毎月、中高校生クラス(児童デイサービスのびと4(男塾))の児童を中心に地域の清掃活動に取り組んでいます。最近では、児童の皆様も率先して準備し、清掃から片付けまでしっかりと行えるようになっています。



②毎週水・土曜日の日課にて「ダンス教室戸」を行なっています。4年前に結成した「琉球ノビッターズ」は東京パラリンピック関連のイベントや小禄地域のまつりにも出演させていただき地域との交流にもなりました。今後も地域のイベント出演依頼お待ちしております



◀県庁記者クラブでの記者会見の様子「東京パラリンピック開閉会式でのパフォーマンスを目指して琉球ノビッターズを結成!!!」

③不登校(ひきこもり等)支援:保護者様・学校・行政機関等と連携しながらご本人様の安心した居場所作りにつとめ、段階的に支援しながら外出・登校等につなげていきます。

④(動ける「歩ける」)医療的ケア児・保護者様のサポート:医療的ケアが必要ということで保育園(こども園)等での受け入れが難しい(動ける「歩ける」)児童・保護者様のご相談やサポートを充実させ、看護師を配置することで医療的ケアや保護者様へのアドバイスなども行っています。

⑤フードバンク・こども食堂への協力:就労センター大樹那覇 カフェ hoccoriPonでは、主にピザやパン・マフィンなどを販売しています。パン等については不定期ではありますが、那覇市社会福祉協議会を通して小禄地域のこども食堂等への提供も行っています。

# 看護小規模多機能めぐみ小祿南の考える協働のまちづくりの一步

医療法人 好縁会グループ 看護小規模多機能施設めぐみ小祿南 相談員 福里ひろみ 氏



## 看護小規模多機能めぐみ小祿南の紹介

私どもは令和 2 年 8 月に高良に誕生した新しい高齢者の介護施設です。

コロナ禍のオープンとなっしまい、地域の方々にお披露目もできず、「どんな施設なんだろう?」と疑問を持たれている方も多くいらっしゃると思います。

3 階建ての建物で 2 階 3 階はグループホームで認知症の高齢者が共同で生活しております。1 階は看護小規模多機能施設です。通いサービスでは、デイサービスのように事業所に通って食事や入浴、レクリエーションなどの介護サービスが受けられます。また、機能訓練や医療的処置などの看護サービスも受けることができます。訪問サービスではヘルパーや看護師がご自宅に訪問し、看護・介護のサービスが受けられます。泊りのサービスでは、ショートステイのように施設にお泊りいただくことができます。この多機能サービスを柔軟に組み合わせ、医療的ニーズが高くなって安心して在宅で生活していただくためのサービスを提供しています。

看護小規模多機能めぐみ小祿南には看護師が常駐しているので、「暮らしの保健室」となって、血圧測定などの健康チェック、体調不安や心配事などの相談に気軽にいらしていただけたらと思っています。場合によっては、出張サービスも、おせっかいな看護師・介護士が、お邪魔いたします〜(#^^#)



## 結の分かち(愛)あい

また、NPO 法人グランアーク、沖縄県人生支援センター、沖縄県がん患者会連合会とも協力しながら、「結いの交流会」を開催し、コミュニティのフレイル予防や認知症講演会、「ゆんたくガーデン、みんなで健康づくり・生きがいづくり」で土づくりから始める野菜と花の種まきなど地域の憩いの場

として活用していただけるようにと活動を始めております。『困ったことがあればめぐみへ』を合言葉に気軽に集まっていたいただける施設を目指しております。逆に『困ったことがなくても、暇があればめぐみへ』でもいいかもしれませんね(笑)。



## 最後まで地域と共に生きる

グループホームには認知症を持つ方が共同で生活しております。認知症を患っていらっしゃるからといって何もできないわけではありません。子どもたちが元気よく笑っている姿をみるとこちらも元気になります。朝の子どもたちの安全な登校のために立哨活動を考えております。それが定着し、子どもたちから「おはようオジー、おはようオーバー」と気軽に呼んでいただけると嬉しいです。また放課後の子どもの居場所としても活用できたらと考えております。例えば、学校帰りにご両親が仕事などで不在の時にこちらで宿題をやり、オジーオーバーと一緒に過ごし、ご両親が帰られる頃に自宅へ帰るといったようなこともできたらと考えております。

高良のこの地で『孤独死を絶対に出さない!』をモットーに地域に根差し、地域に貢献できる施設でありたいと切に願っております。そのためにはたくさんの方々にご施設を知ってもらい、気軽にいらしていただき、地域の集いの場となるよう、日々、取り組んで参ります。

# 無料定額診療事業の紹介

社会福祉法人沖縄にじの会 ゆがふ苑施設長 玉城好史 氏



高齢者介護事業を運営するにあたり医療との連携は非常に重要となっています。当法人は沖縄医療生活協同組合が運営する医療機関と協力体制をとりながら医療・介護の側面で高齢者の支援を行っています。

今回は、沖縄医療生活協同組合で実施している「無料低額診療事業」をご紹介します。沖縄医療生活協同組合と社会福祉法人沖縄にじの会は「無差別・平等の医療と介護の実現」を理念のひとつとして掲げており、お金の有無なしに医療が中断されないように社会福祉法に定められている「無料低額診療事業」を実施しています。事業の中身は文字通り医療が必要な時に発生する自己負担分に関して、支払いが困難な場合に一定の要件を満たせば無料あるいは低額にするものとなっています。「いのちを守る」ことが最大の目的の制度ですが、「疾患を背景から観る」ためには、なぜ医療にかかれなかったのかについて考えていく必要があり、生活が自立するためにはどのような援助が必要なのかについて治療と並行しながら多職種による支援が行われています。

事例で紹介します。40 代女性。親と同居で親の年金で生活していた状況でした。病気で仕事を辞めたことで無職となったが、回復し就労可能であるため就職活動を再開。しかし、虫歯がひどく歯が無い状況で、発音も悪く面接で繰り返しの不採用となっていました。就労できな

いため、収入が得られず歯の治療も困難となっていました。本人より「前歯だけでもいれてほしい。そしたら、仕事が見つかる。支払いは分割払いで…」との要望がありました。そこで「無料低額診療事業」を利用し、歯科治療を開始したことで就職することができ、生活の安定に向かうことができました。話すこと、食べることの改善はもとより、それ以外にも患者が取り戻したものは忘れていた笑顔と自信でした。経済的な困難は人としての生活のあらゆるものに影響するものであり、病気の背景には様々な要因が隠れています。

制度を運営していく上で課題が浮上しました。「薬代」です。医療機関での治療は支援することができても薬代を支払うことが困難で薬剤による治療が中断してしまいます。そこで本制度を活用している患者に対して薬代助成の設置を那覇市へ陳情し、助成制度が認められました。現在は豊見城市にも助成制度設置の陳情を行っています。

「まず、いのちを守る」本制度はあくまでも生活状況が改善されるまでの一時的な措置です。最終的には公的制度の活用をめざし、その間のつなぎの役割を果たすものです。制度を活用しながら、生活の改善、社会的資源、公的制度の申請、手続き等について利用者本人も努力していく必要があります。



社会福祉法人 沖縄にじの会 特別養護老人ホーム ゆがふ苑



那覇市地域密着型高齢者複合施設 わらていーだ



社会福祉法人 沖縄にじの会 特別養護老人ホーム 知花の里

## ④ 社会福祉施設が地域貢献活動を行っている事例を通しての気づき

17 法人の地域貢献への取組事例は、医療法人、NPO 法人、社団法人、有限会社、そして社会福祉施設として最も多い社会福祉法人が存在している。昨今の「地域における公益的な取り組み」の要請を受けて、にわか仕立てによる取り組みではなく、地道に地域との関係づくり、住民との協働を行ってきた事例から以下の共通した気づきがあった。

- ① 法人のトップ、経営者に地域貢献に対する強いこだわりや哲学がある。
- ② 社会福祉施設の、ポテンシャル(強味)を活かした取り組みで積極的に法人の価値を高めている。
- ③ 地域に声掛けなど、積極的に向かい、巻き込むべき人や核になる人を見極め、地域の協力を増やしている。
- ④ それぞれの施設で、地域ニーズの取組を地域の特性等を勘案してオリジナルな取り組みを法人らしくアレンジしている。
- ⑤ 担当者の配置がある施設が多いが、専任ではなく兼務として取り組んでいる。
- ⑥ 積極的に地域に出向き、住民との協働するようになった背景には、地域課題を目の当りにした出来事や、困っている福祉ニーズに当たって得た人のつながりがある。
- ⑦ 職員への浸透 地域貢献を行う施設に共通することは、職員を育成し、やめない工夫を行ったり、地域住民と一緒になにかをすることで仕事の面白みに気づかせて、結果的に職員の成長に繋がることを多くの経営者が知っていること。

※引用文献 社会福祉施設の地域貢献としてのボランティア活動のあり方  
先進事例の調査からの検討



## 3. これからの那覇市内の社会福祉施設に 地域貢献活動に参加して頂きたいこと

### ① 社会福祉法人等施設の地域貢献活動「ちゅいネットなは」の内容

#### 1. 総合相談(トータルサポート)

制度の狭間の生活困窮などの様々な課題を抱える方に対し、各関係機関や住民と連携し、既存の制度や機関につないだり、自立を支援するための総合的な相談支援を行う。



#### 2. 食料提供運動(フードサポート)

緊急性を要する生活困窮状態の方に、必要な食料の提供を行う。公的な制度や既存のサービスによる支援が受けられず、緊急性を要する生活困窮状態にあり、食料などの提供を行うために、必要な食糧などを備蓄し必要に応じて提供する。



#### 3. 福祉教育支援(ヒューマンサポート)

地域の福祉を支える担い手の育成活動として専門スタッフが、学校や地域に向かいの講話を行い、福祉教育活動を応援する。



#### 4. 居場所支援(プレイスサポート)

地域の様々な居場所づくり(サロン・子どもの学習支援、子ども食堂等) ボランティア活動者の拠点として施設の開放を行いサポーターの居場所を支援する。



#### 5. 就労体験・社会参加活動の提供(ワークサポート)

就労に不安がある方や就労や社会参加活動を希望する方に対し、社会福祉法人等施設の機能を活用し、就労の場や社会参加活動の機会を提供する。

#### 6. 移動支援(トランスサポート)

法人の車両や職員が、交通不便地域の買い物、通院などのお手伝いをします。社会福祉法人等の資源を活用し、社協、地域と連携し、中学校区内圏域の買い物、居場所、通院などの送迎をお手伝いする。



#### 7. その他、地域支援

既存の制度やサービスでは対応困難な課題に対して、社会福祉法人等の資源を活用し必要な活動を行います。

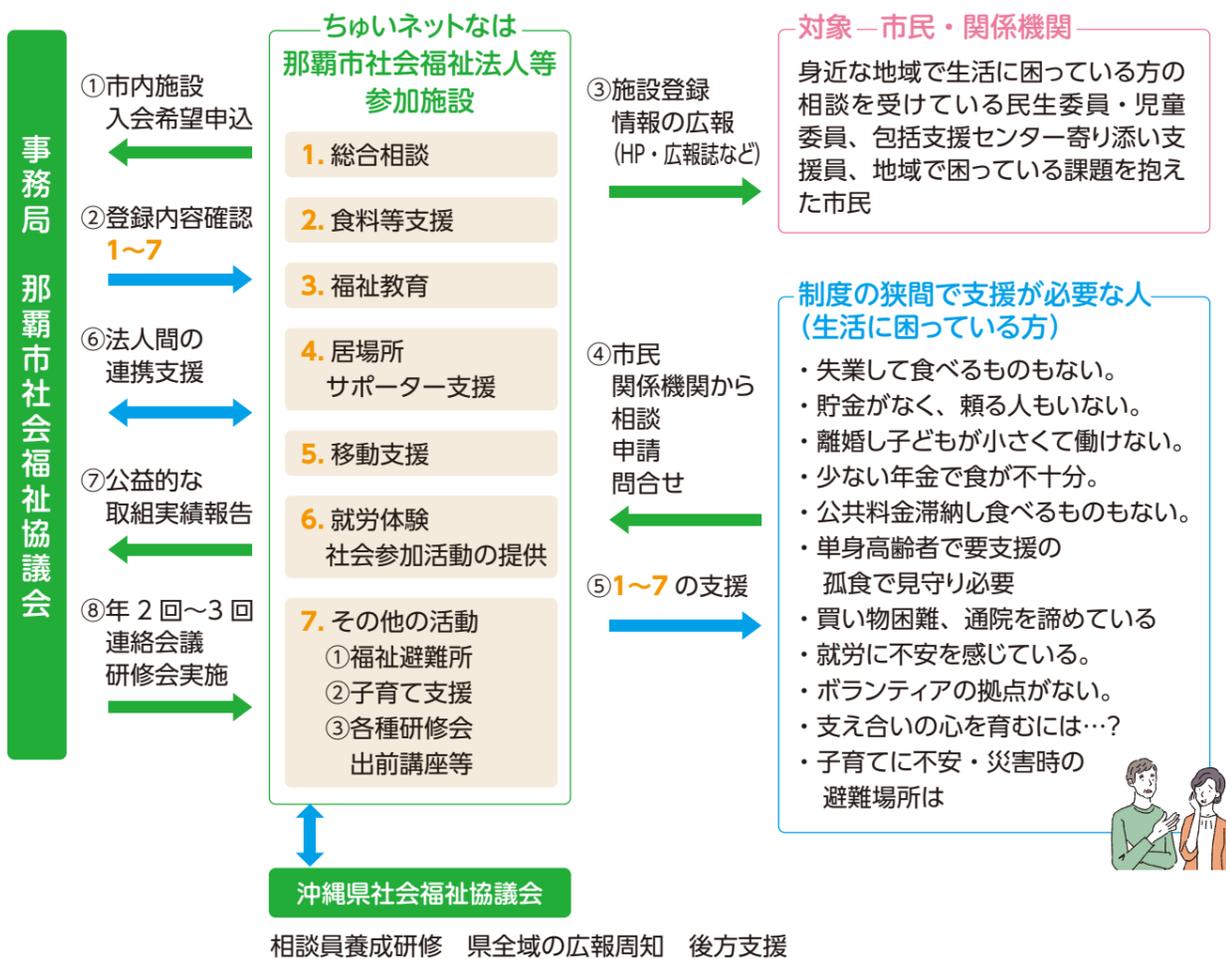
- ① 見守り隊など地域の実態把握活動
- ② 民生委員・児童委員、自治会等への協力
- ③ 福祉避難所の運営
- ④ 子育て支援等法人の強みを活かした地域活動
- ⑤ 地域活動への応援

## ②略して「ちゅいネットなは」とは、 困っているときはお互い様の助け合いの輪

### ちゅいネットなとは

ちゅいは、ちゅいしいじいの略（人と人が助け合いの心で）  
ネット（複数法人と関係機関が連携）、なは（支え合いの那覇市にしていきましょう）の意味

### 令和5年度の事業計画 「ちゅいネットなは」体系図



## ③参加手引書の活用について 社会福祉施設が地域貢献を行う場合のステップ

### ステップ1 「地域の拠点となることへの職員の理解と認識の共有」 想いを共有

まず、職員が地域貢献についての意識の共有を図るため、全体職務会等を通して、手引書を活用させていただき勉強会を行ってみたいかがでしょうか。その際に事前に、職員対象のアンケートを取って「地域に対してどれくらい目を向けているのか」「自身の仕事と関連付けて捉えているのか」を把握する等、アンケートの結果を踏まえ、参加の手引書は、地域に存在する社会福祉施設の役割や使命等の意識付けを確認し、法人の代表が考えている地域に対する想いを共有するお手伝いが出来ると思います。

### ステップ2 「取り組みが安定かつ効果的に実施できる体制の整備」 担当者の配置

ステップ2では、これまでの法人や施設等は、「介護が必要～」「元気なうちはいかない場所」といったイメージを持たれている方も多々と思います。これは、利用者以外の方が施設に関わる機会が少ない現状を意味しています。その一方で「実際に施設に来てみるとイメージが変わった」との感想も期待できます。また、世代間の「交流の場」としての機能や、ボランティアの育成・コーディネート機能、介護指導や相談機能が期待されていることもあるかもしれません。これらの結果から、地域貢献活動をするにあたり、担当者を配置することで、地域の関係機関とのネットワークが構築しやすくなり、連携がスムーズになることが予想できます。地域の施設を有意義に活用できる体制を整えることで、①地域の身近な拠点、②法人、施設等が居場所としての機能を提供、③行政・社会福祉協議会・民生委員児童委員・老人クラブ・施設職員等でメンバーを構成し、施設と地域住民の話し合いの場づくりを行う体制整備、法人独自のノウハウを生かした福祉教育等が期待されます。

### ステップ3 「具体的事業の実践」 担当責任者任せにせず、組織で無理なく取り組む

手引書を活用して、施設ができる地域貢献活動をP31の①～⑦から1つ以上に申し込んでいただけることをお待ちしております。地域貢献活動を実践するにあたり、地域住民、関係機関と職員との交流が図られ、地域ニーズのさらなる発掘・把握につながります。また、地域住民の方と顔の見える関係づくりを目指していきます。

### ステップ4 「取り組みの評価と検証」 一人の100歩より、みんなの小さな一歩で地域とながーいお付合い

実践後、ちゅいネットなはでは、活動の振り返りを行います。事業実績と事業計画の改善をくり返しなが、少しずつ事業を軌道にのせていくことが重要になります。取り組みのプロセスは、PDCAサイクルを活用して実施していきます。

※参考 社会福祉法人 六親会 地域と社会福祉法との協働、地域における取組事例

那覇市社協会員会費活動、赤い羽根共同募金運動、歳末助け合い運動が、本事業及び地域福祉活動の浄財となりますので、ご協力をお願いします。

社協会費は、1施設一口3千円、赤い羽根、歳末募金は、1団体一口3千円（募金活動はあくまで目安です。）

## 4. 入会に関する資料編

### 那覇市の社会福祉施設の皆さま、ご入会をお待ちしています。

#### (1) 参加の手続き

社会福祉法人等の地域貢献活動に「ちゅいネットなは」の趣旨に賛同し、参加しようとする法人様は、所定の入会申込書を那覇市社協に提出します。

入会申込書には、可能な限りで構いませんので活動可能な分野に○を記入してください。一つ以上にご協力をお願いします。那覇市社協は、「参加社会福祉法人等施設」として指定し、活動を推進します。ホームページに公表します。活動された団体は、広報誌等で市民に周知をさせていただきます。その活動の積み重ねが、身近な地域の市民の安心される福祉拠点として広がっていくものと強く願っています。

申し込みは随時受付します。変更があった場合、または、変更したい場合には変更届(参考様式)を提出します。また、参加社会福祉法人等が解散した場合、又は変更した場合又は、退会の申し出が提出された場合には退会したものとします。

#### (2) 入会費

ちゅいネットなはの活動入会費は、無料です。

#### (3) 入会資格

入会資格は、趣旨に賛同された社会福祉法人のみならず、株式、NPO、有限、社団法人等が運営する社会福祉施設です。

#### (4) チャリティ活動の推進

那覇市社協は、参加社会福祉法人等施設に対して生活困窮者応援事業として、チャリティボウリング、食料提供運動を推進しています。こちらも可能な限りご協力をお願いします。



## (5) ちゅいしいじい (ちゅいネットなは) 事業の参加に係る Q&A

### Q1 「ちゅいネットなは」に参画したら、どんな活動をするのでしょうか。

A 「ちゅいネットなは」は、社会福祉法人等施設の連携により、那覇市内の公益的な取り組みを推進していきます。具体的には、①総合相談(トータルサポート)②食料等の備蓄提供(フードサポート)、③就労・社会参加活動の提供(ワークサポート)④移送支援(トランスサポート)⑤居場所支援(プレイスサポート)⑥福祉教育支援(ヒューマンサポート)⑦その他の活動となっています。

それぞれの活動は、各社会福祉法人等が出来る範囲の活動を選択し行っていきます。相談者の地域性や特性などに併せて各法人や関係機関が連携して役割分担をして実施していきます。

### Q2 地域の困っている人は本当にいるのでしょうか。

A 近年、これまでの社会福祉事業や制度だけでは支援することが難しい制度の狭間の課題や複合的な課題が増加しています。

その背景には、那覇市においては、自治会の加入率が、27.3% (平成 10 年) から 16.0% (令和 2 年 5 月現在) と著しく減少している。(コミュニティの脆弱化) 平成 22 年度から平成 30 年度にかけて保護率の割合が 30%から 40% (1000 人の内 40 人が保護受給者) と増加している。

一人親世帯の 9 割が母子世帯にあり、養育者世帯(親族等)が近年増加傾向にある。高齢者の単身世帯が 14,263 (平成 21 年度) から 25,435 (令和 2 年 12 月 1 日) にかけて、約 1 万 1 千世帯も増加傾向にあります。

また昨今コロナの影響で収入が減少し、失業者も増えており、緊急特例貸付資金なども、令和 3 年 3 月から 12 月現在までに那覇市で約 69 億円の貸付が決定し、世帯数割では、全国で一番件数の割合が高い。特例貸付の対象にはならないが、これまでどこに相談していいかわからなかったという方々も、とりあえず社協にという問い合わせが増加傾向にあります。その他、那覇市内の孤立死の数も、年間 100 件弱というデータでみると社会的孤立の現状が浮き彫りになっています。

また、地域の相談役となる民生委員児童委員の数も 502 名の定数の 176 名有余が欠員となっています。(2023.4.1 現在) このように、那覇市の地域福祉の課題として、コミュニティの活性化、社会的孤立対策、担い手の課題が特に急務となっています。

そのことから、身近な地域に、社会福祉施設が地域の拠り所となり、関係機関の協力者となって、働きかけたり、時には相談者のお話に耳を傾けて必要な他の法人機関につないで、寄り添い支援を行います。この活動を行うことで、施設の機能を十分に活用して地域に貢献していきます。その一つ一つの活動の積み重ねが、幸せな地域づくりの一歩となることを確信します。

### Q3 あそこにいけば(入会した施設)、お金や食料がもらえるという情報が広がって、相談が殺到しませんか。

A ①総合相談(トータルサポート)は、支援の必要性について、相談内容の緊急性、即応性などを各法人が判断して対応します。②食料等の備蓄提供(フードサポート)、は、単なる解決のための手段の一つであり、自立生活に向けた支援なので、現物給付のみで現金の給付はありません。

あくまでも必要に応じて、社協や関係機関につなぐ役割となります。

### Q4 少ない職員の中で、職員の負担が増えて対応が難しいのではないかと心配です。

A 仮に、相談を受けた社会福祉法人等施設が多忙などの理由で相談や支援ができない場合には、近くの法人施設が代わりに相談や支援を行い、1 法人だけに負担が偏らないような仕組みを心掛けていきます。ネットワークがある故に、地域で困った人を法人が“放っておかない”ことが可能になります。

社会福祉法人等の社会福祉施設の地域貢献活動

「ちゅいネットなは」入会申込書

令和5年 月 日

社会福祉法人那覇市社会福祉協議会会長殿

社会福祉法人等施設名

代表者氏名

那覇市内の社会福祉法人等の社会福祉施設の地域貢献活動の趣旨に賛同し、参加します。

法人本部 (所在地)				
電話番号		FAX番号		E-mail
入会費	無料 (但し、社協の活動費の浄財となる社協会費、共同募金・歳末助け合い募金運動へのご協力をお願いします)			

入会に向けて、貴法人の地域貢献活動を紹介します。

参加可能な活動について、該当する活動の1つ以上に○もしくは、他の具体的な活動があれば、記述してください。相談は、専門相談は必須で、専門外は任意ですが連携して繋いでください。

1 相談 (トータルサポート)	・専門相談 ・専門外相談は 他の法人につなぐ	4 居場所支援(プレイスサポート) 施設の部屋の無料開放	
2 食料等支援活動 (フードサポート)		5 社会参加・就労支援 (ワークサポート)	
3 福祉教育(専門分野の講話) ヒューマンサポート		6 移動支援サービス (トランスサポート)	
7 その他地域支援 地域で気になる世帯の見守り、福祉避難所、ちびっこ見守り隊など、具体的に記述してください。			

また、対応する職員のための、事例検討や研修会などを継続的に行い、職員の資質向上と負担を軽減する取り組みを行っていきます。また、那覇市協のCSW、ふれあい福祉相談室や最寄りの包括支援センター、教育委員会の寄り添い支援員、ケアマネ、障がい者相談専門員などの必要な場合などわからない点は、社協事務局にご連絡下さい。

Q5 参画すると、どんなメリットがあるのでしょうか。

A 「ちゅいネットなは」は、社会福祉法人等施設の使命に基づく活動として、法人の持つ人材や施設の機能などの資源を提供いただくことが必要で、メリットを前提とするものではありません。あえて言えば、直接「ありがとう」「助かった」と感謝されるほかに、「とてもよかった」「相談してよかった」という声が寄せられることが法人にとっての財産になるのではないのでしょうか。

また、①今までに出会わない対象者と出会うこと②今まで関係していない関係機関と出会うこと③自然に関係機関と連携できること④社会福祉法人等施設同士の連携が出来ることなどから、この活動の積み重ねは、これまでにない、即応性と柔軟性の高い解決手段として新たな社会福祉制度の狭間への取り組みとして期待できます。

Q6 複数の法人が連携する意義はなんですか。

A 一つは、点の活動を面で支えるというものです。各法人が異なる特性や専門性を持つ点の活動を共有することで、面の活動として展開できます。実際に相談支援を一緒に行ったり、相談者の居住地等により相談ケースを引き継ぐことなどもあります。二つ目が、「各法人の資源を積み重ねる」ということです。活動の財源は参画する法人からの社協会費・共同募金運動から、活動の必要経費を支弁しています。相談支援に必要な研修や事例検討会も市民からの浄財によって開催されます。

Q7 地域のニーズの把握や事業の有効性の検証などは行われているのでしょうか。

A 私たち社会福祉事業を行ってきた先人たちは、生活に困っている人がいるから制度をつくって支援しようというのではなく、目の前で困っている人々に積極的に支援を行なうことで、現在の事業が構築されてきたという歴史があります。“まず始めること、つくりあげていくもの”です。

ちゅいしいじい事業の取組は、その原点に立ち返って、那覇市内の相談支援を拡げていこうとしています。その相談内容を客観的に施設連絡会などで検証しつつ、実際に支援を行っている法人の皆様のご意見や要望を取り入れて、必要に応じて内容を吟味していきます。

Q8 社会福祉法人等の実践を「見える化」するといっても、参加しない法人があれば不公平ではないですか。参加する法人だけが享受できるものは何かありますか。

A 本会発行の広報誌や、HPなどで、「参加法人」を公表していきます。

また、「参加法人」の課題に対応したセミナーの開催や情報提供等を行う等を計画しています。さらに、分野別の法人同士の繋がり、世代間交流等の事業推進が法人同士の人材確保にも繋がり、法人の価値を高めあえることが期待されます。新たな課題に対する検討やちゅいネットなはによる支援は、「参加法人」が地域貢献活動を拡げていけるよう、具体的効果的に実施するための支援を行っていきます。



## (6) ちゅいしいじい (小規模法人ネットワーク) 事業 (愛称ちゅいネットなは)

### 那覇市社会福祉法人等社会福祉施設 地域貢献活動実施要領

#### (目的)

第1条 この要領は、那覇市社会福祉協議会（以下、那覇市社協）、本会定款 34 条並びに部会委員会規定に基づき、那覇市内で活動する社会福祉法人等（医療・企業法人・福祉関係機関含む。以下「法人」という。）の法人間の理解と連携体制の強化、及び法人及び社会福祉法に定める「地域における公益的な取り組み」を始めとする各種法人活動の理解と促進等を目的に実施するものである。

2. 社会福祉施設等地域貢献活動は、「ちゅいしいじいネットワークなは」を略し、「ちゅいネットなは」と称し、那覇市内の社会福祉施設等が協働し、既存の制度やサービスでは対応できない課題に迅速に対応することを本旨として、支援が必要な者の早期把握と具体的な解決を図ることを目的に実施するものである。

#### (定義)

第2条 社会福祉施設とは、厚生労働省が定める老人福祉施設、障害者支援施設、保護施設、婦人保護施設、児童福祉施設、その他の施設とする。

2. 社会福祉法人施設等とは、社会福祉法人、医療法人、社団法人、NPO 法人、企業法人等が参画する地域貢献活動を行う者を示す。

#### (参加社会福祉施設等と事務局)

第3条 地域貢献活動の趣旨に賛同し参加しようとする社会福祉施設等は、所定の入会申し込み書（様式1号）を那覇市社協に提出し、那覇市社協は、当該社会福祉施設等を地域貢献活動の協力機関として指定し、地域貢献活動を推進するものとする。

2. 那覇市社協は、前項の社会福祉施設等を広報誌やホームページ等で公表するとともに、その社会貢献活動の事例を広く情報発信し、那覇市内の社会福祉施設等による地域貢献活動を推進するものとする。

3. 那覇市社協は、事務局として社会福祉施設等地域貢献活動を推進し、沖縄県社協、参加社会福祉施設等と協働して活動するものである。

4. 那覇市社協は、社会福祉施設等が解散した場合または、書面で退会の申し出が提出された場合には、退会したものとする。

#### (活動内容)

第4条 地域貢献活動を行う参加社会福祉施設等は、次の活動を行う者である。

##### (1) 総合相談（トータルサポート）

制度の狭間の生活困窮などの様々な課題を抱えるものに対し、各関係機関や住民と連携し、既存の制度や機関につないだり、自立を支援するための総合的な相談支援を行います。

##### (2) 食料支援（フードサポート）

公的な制度や既存のサービスによる支援が受けられず、緊急性を要する生活困窮状態にあり、食料などの提供を行うために、必要な食糧などを備蓄し、必要に応じて提供します。

##### (3) 福祉教育支援（ヒューマンサポート）

地域の福祉を支える担い手の育成活動として施設の専門スタッフが、学校への実習受け入れや、学校や地域に出向いての講話を行い福祉教育活動を応援します。（医療・保健・福祉教育分野の人材の派遣）

##### (4) 居場所支援（プレイスサポート）

地域の様々な居場所づくり（サロン・子どもの学習支援、子ども食堂等）ボランティア活動者の拠点として施設の開放を行いサポーターの居場所を支援します。

##### (5) 就労体験・社会参加活動の提供（ワークサポート）

就労に不安がある者や就労や社会参加活動を希望する者に対し、社会福祉法人等施設の機能を活用し、就労の場や社会参加活動の機会を提供します。

##### (6) 移動支援（一部試行実施）（トランスサポート）

社会福祉法人等の資源を活用し、社協、地域と連携し、中学校区内圏域の買い物、居場所、通院などの送迎をお手伝いします。

#### (7) その他 地域福祉活動

既存の制度やサービスでは対応困難な課題に対して、社会福祉施設等の資源を活用し必要な活動を行います。①見守り隊等地域の実態把握活動②民生委員・自治会への協力③福祉避難所④子育て支援等

2. 那覇市社協は、前項の活動を円滑且つ効果的に実施するために、第3条の参加社会福祉法人等社会福祉施設に対し、県社協の支援連携を図り、必要な情報提供や研修事業を実施し総合相談を推進し、人材育成を行う。

#### (活動の財源)

第5条 那覇市社協は、前条の活動を円滑に推進するための財源として、第3条に規定する参加社会福祉施設等からの社協会費、共同募金、歳末募金、その他（チャリティ）の収入で以て充てるものとする。

#### (連絡協議会)

第6条 那覇市社協は、第1条に規定する目的を達成するため、円滑に事業を進めるとともに、適切な運営管理を行うために連絡協議会を設置するものとする。

2. 連絡協議会は、第3条で規定する参加社会福祉施設等の代表者及び実務者30名以内の委員で構成し、那覇市社協会長が、委嘱するものとする。

3. 連絡協議会は、那覇市社協会長が招集するものとする。

4. 連絡協議会、委員長及び副委員長をそれぞれ1名置き、委員の互選によりこれを定めるものとする。

5. 連絡協議会の委員長は、会議の議長となり、副委員長は委員長に事故あるとき、その職務を代理するものとする。

6. 那覇市社協、参加社会福祉施設等の事業の進捗について協議するため、第1条に規定する目的達成のため、連絡協議会代表者会議・実務者会議を開催するものとする。

#### (協議)

第7条 連絡協議会は、次の事項を協議する。

複数法人の連携による地域貢献のための協働事業の立ち上げ・検証・事業化

法人合同での学習会及び研修会

法人間での情報提供と共有

法人及びその活動の地域住民への周知及び発信

その他、連絡協議会の目的達成のための必要事項

#### (担当者の配置と活動報告)

第8条 那覇市社協は、第3条に規定する社会福祉施設等に、第4条で規定する活動の連絡調整を行う担当者を配置するものとする。

2. 担当者は、第3条に規定する社会福祉施設等や関係機関と連携協働しながら、相談者の生活上の課題を把握し、必要な社会資源について調整を行うとともに、課題解決を図るものとする。

3. 第3条に規定する社会福祉施設等は、相談や支援に関する記録を定められた様式に基づいて、那覇市社協の担当者に活動報告するものとする。

#### (個人情報保護)

第9条 地域貢献活動の実施に携わる者は、個人のプライバシーの保持に十分に配慮するとともに、事業の実施に際し、知りえた個人情報を本人の同意を得ずに他に漏らしてはならない。また、その職務を退いた後及び事業の参加を終了した後も同様とする。

2. この要領に定めるものの他、事業の実施に係る個人情報の管理については、那覇市社協文書管理規定及び個人情報保護規定の定めるところによるものである。

#### (その他)

第10条 この要領に定めるもののほか、連絡会議の運営に必要な事項など、社協会長が別に定める。

附則 この要領は、令和5年4月1日から施行する。

(7) 参画法人名簿 (令和4年12月1日)

(①総合相談、②食料提供運動、③福祉教育支援、④居場所サポート、⑤就労体験・社会参加活動の提供、⑥移動支援、⑦その他、地域支援)

施設名	代表	担当	〒	所在地	連絡先	専門分野	紹介ページ	実施する活動
社会福祉法人ゆうなの会	理事長 神谷幸枝	次長 金城満	903-0802	首里大名町1丁目43番地の2	tel.886-5070 fax.885-1186	高齢者	P7、P16	①②③
社会福祉法人若杉福祉会	理事長 屋宜勝子	理事 屋宜貢	903-0802	首里石嶺町3丁目227-1	tel.887-1912 fax.884-1299 城北保育園 885-4848	保育 児童	P23	①③④ ⑤⑦
社会医療法人葦の会	理事長 田頭真一	在宅支援局管理 副部長 奥原弘美	903-0804	那覇市首里石嶺町4丁目238番地2(3階)	tel.886-2311(本部) fax.886-5588 tel.884-1300	福祉、医療 介護	P19	①②③ ⑦
(社)借生会 石嶺児童園指定管理	理事長 安里政晃	園長 上原裕	903-0804	那覇市首里石嶺4丁目394番地	tel.886-2721 fax.886-5014	児童	P7	①③④ ⑦
社会福祉法人からし種の会	理事長 棚原信子	施設長 棚原和歌子 主任 渡久地恵子	903-0803	那覇市平良町1-32-1	tel.886-1797 fax.894-8455	障がい	P7、P14 P26	①②⑤ ⑦
社会福祉法人そてつつの会	理事長 新元時雄	施設長 盛島光司 地域課長 本村寿嘉子	900-0024	那覇市古波蔵4丁目7番14号	tel.853-0640 fax.853-0641	障がい	P9、P15	①②③ ④⑤⑦
社会福祉法人ポプラ福祉会	理事長 崎濱盛喜	園長 崎濱恵利子	900-0025	那覇市壺川2丁目5番13号	tel.853-1819 fax.854-6315	保育 児童	P9	①②⑦
社会福祉法人うるま福祉会	理事長 高良桂子	園長 譜久島理	900-0013	那覇市牧志2丁目3番15号	tel.867-3221 fax.862-3930	保育	P9、P21	①②③ ⑦
医療法人正清会	理事長 与儀英明	副理事長 久田護雄 法人代表者 大城盛博 所長 金城美紀	901-1101	南風原町大名275	tel.889-3206 fax.889-5311	福祉、医療 介護	P9、P20	①②③ ⑦
一般社団法人ハーネス	理事長 嘉手川重一	理事長 嘉手川重一 理事 横間光徳	900-0022	那覇市樋川1丁目30番12号	tel.070-5279-9142 fax.953-7276	障がい	P9、P17	①②④ ⑦
社会福祉法人雅福祉会	理事長 兼城照美	園長 兼城健一	900-0003	那覇市安謝1-8-24	tel.941-5567 fax.941-5588	保育	P9、P13	①③④ ⑤⑦
繁多川公民館	館長 南信乃介	副リーダー 本田まどか	900-0071	那覇市繁多川4-1-38	tel.917-3448 fax.835-4903	地域福祉	P8、P18	①②③ ④⑤⑦
医療法人城南会 那覇市地域包括支援センター繁多川	理事長 山根邦夫	管理者 濱川尚志	902-0071	那覇市繁多川3-6-9	tel.963-6478 fax.963-6479 houkatsu.hantagawa @docomo.ne.jp	高齢者	P8	①⑥⑦

(①総合相談、②食料提供運動、③福祉教育支援、④居場所サポート、⑤就労体験・社会参加活動の提供、⑥移動支援、⑦その他、地域支援)

施設名	代表	担当	〒	所在地	連絡先	専門分野	紹介ページ	実施する活動
社会福祉法人 沖縄中央福祉会彩風の杜なほ	理事長 安里富士子	(係長) 國吉俊祐	902-0062	那覇市松川3丁目19番46号	tel.996-2844 fax.996-2486	障がい者 高齢者	P8、P22	①②③ ⑥⑦
社会福祉法人乙羽会 グリーンハウス国場	理事長 我喜屋宗重	施設長 玉城正史	902-0075	那覇市国場326	tel.851-9301 fax.851-9302	高齢者	P8	①②③ ⑦
社会福祉法人おきなわ共生会	施設長 與那嶺将	介護支援専門員 仲西子工三	902-0071	那覇市繁多川5丁目20-12	tel.987-7911 fax.9961679 090-1949-4747	就労	P8	①⑤⑦
社会福祉法人沖縄肢体不自由児協会 沖縄南部療育医療センター	院長 當山潤	課長 池田朝彦	902-0064	那覇市寄宮2-3-1	tel.832-3283 fax.835-1291	医療	P8	①②③ ⑦
社会福祉法人おきなわ共生会 福祉複合共生施設なんくる	施設長 当間順子	施設長 当間順子	902-0077	那覇市長田1丁目18-10	tel.987-0790 fax.987-4220 080-6484-7716	高齢者 障がい	P8	①②③ ④⑤⑦
日本赤十字社沖縄県支部	事務局長 上間司	事業推進課長 池原栄作	902-0076	那覇市与儀1-3-1	tel.835-1177 fax.835-1178	医療	P8、P24	①③⑦
那覇市国場児童館 (一社)沖縄じんぶん考房	館長 山崎新	館長 山崎新	902-0075	那覇市国場353番地	tel.098-855-2696	児童	P8	①③④ ⑤⑦
社会福祉法人垣花福祉会	理事長 神山浩子	園長 新里順子	901-0155	那覇市金城2-3-10	tel.858-8181 fax.857-6052	児童	P10	①②③ ⑦
社会福祉法人ニライカナイ (946-7177 本部)	理事長 豊村良春	事務局長 豊村英 地域連携室長 玉城恒	901-0152	那覇市小禄964-1 那覇市高良1-1-62	のびっと :858-1663 858-1665 デイ那覇 :852-1007 852-1009	障がい	P10、P27	①②③ ⑤⑥⑦
有限会社百米 グループホームつぼみ	代表者 恩田真弓	管理者 山城正子	901-0146	那覇市良志2-18-12	tel.996-3670 介護支援専門員 新泊健 :070-6594-6243(管理者)	高齢者	P10	①⑦
社会福祉法人ペリー福祉会 ペリー保育園	園長 賀数博	園長 賀数博	900-0027	那覇市山下町31番19号	tel.857-2765 fax.987-1754 090-8291-5499	保育	P10、P25	①②③ ④⑦
社会福祉法人千草福祉会 あやめ保育園	理事長 金城弘子	園長 金城佑佐	901-0152	那覇市小禄4-11-14	tel.858-2005	保育	P10	①②③ ⑦
社会福祉法人沖縄にじの会 特別養護老人ホームゆがふ苑	理事長 仲西常雄	施設長 玉城好史 課長 玉城龍馬	900-0027	那覇市山下町5-30	tel.996-2200 fax.996-2111	高齢者	P10、P29	①②③ ⑦
医療法人好縁会 株式会社ワエルケア沖縄 看護小規模多機能施設めぐみ小禄南	管理者 阿波連愛香	相談員 福里ひろみ	901-0145	那覇市高良2-9-6	tel.859-7004 fax.859-7022	医療	P10、P28	①②③ ⑦

## 5. 地域貢献活動に役立つ主な相談窓口

「ちゅいネットなは」に参画する法人へ相談に来た方の相談内容が、専門外である場合や対応方法がわからない場合等は、前ページの参画法人名簿の専門分野へ紹介するか、以下の相談先を参考にして、適切な機関へ繋がられるようにしましょう。

### 高齢者に関する相談はこちら

#### ▶ 那覇市地域包括支援センター

…高齢者の介護予防や介護保険・福祉に関する様々な相談に応じ、各種の公的な保健・福祉サービスの紹介・相談などを行う相談窓口です。各中学校区に設置されていますので、問い合わせは地域のセンターへ。

石 嶺 tel.886-7987	大 名 tel.886-5177	城 西 tel.887-7700	繁多川 tel.963-6478
松 川 tel.882-1622	松 島 tel.882-2266	識 名 tel.987-1010	安 里 tel.860-2211
古波蔵 tel.855-6254	国 場 tel.851-9308	新都心 tel.941-2252	安 謝 tel.860-3747
泊 tel.860-5121	若 狭 tel.863-1165	城 岳 tel.863-3660	かなぐすく tel.852-0777
小 禄 tel.858-0096	高 良 tel.859-6633		

### 児童に関する相談はこちら

#### ▶ 中央児童相談所

… 18歳未満の児童に関する相談に応じており、子育て、非行、不登校など相談内容は様々です。

→tel.886-2900 fax.886-6531

#### ▶ 那覇市母子父子寡婦福祉相談

… 那覇市在住のひとり親世帯及び寡婦の仕事・育児・教育・生活などの様々な面で支援します。

→tel.858-7217 fax.851-8114

### 生活困窮に関する相談はこちら

#### ▶ 就職・生活支援パーソナルサポートセンター

… 那覇市内に居住し、失業や休職、引きこもりやニート等により経済的な問題で生活に困っている方の相談先です。

tel.917-5348 fax.865-5005

### 障がい者に関する相談はこちら

#### ▶ 障がい福祉相談 那覇市福祉部障がい福祉課

… 障がい者への福祉に関する相談や各種情報の提供を行います。

tel.862-3275 fax.833-7785

### 複合的な相談はこちら

#### ▶ 那覇市社会福祉協議会

… 民間の社会福祉活動を推進することを目的とし、さまざまな分野の相談を受付けています。対応に困った際は、こちらへ問い合わせください（問い合わせは下記の番号と同じ）

#### ▶ ふれあい福祉相談室

… 日常生活の心配事、悩み事についての助言・援助を行っています。

tel.857-7766・857-7780

fax.857-6052

### 子育てに関する相談はこちら

#### ▶ 地域子育て支援センター

… 乳幼児の子育ての悩みについて相談受付しています。

はっぴい(久場川保育園) tel.887-4188

むるが家(安謝保育園) tel.862-2584

なんくる家(みどり保育園) tel.886-6044

南風(あやめ保育園) tel.858-2005

ゆんたく(鏡原保育園) tel.859-3511

すまいる(天久保育園) tel.867-9016

うえばる一む(宇栄原保育園) tel.858-9233

ていーら(樋川みらいこども園) tel.834-0963

ちゅいネットなは子育て相談(雅福祉会) tel.941-5567

#### ▶ 子ども寄添支援員(スクールソーシャルワーカー)

… 担当小学校を週に一回程度訪問しており、学校生活や家庭の経済的な悩みなど幅広い相談を受付けています。相談が必要な場合、那覇市社会福祉協議会へお問合わせ下さい。

### 地域活動に関する相談はこちら

#### ▶ 那覇市社会福祉協議会ボランティアセンター

… ボランティアを始めたい、募集を募りたいなど様々なボランティア活動への相談、対応を行っています（問い合わせは下記の番号と同じ）

#### ▶ CSW(コミュニティソーシャルワーカー)

… 行政区ごとにワーカーを配置し、それぞれ担当する区域の様々な課題解決、相談活動等を行っています。

tel.857-7766 fax.857-6052